市町村名	宮古島市

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-①	緊急物資備蓄事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－2－(4)－イ 災害に強い県土づくりと防災体制の強化
担当部課名	総務部防災危機管理班	事業実施(予定)年度	平成24～27年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－10－(2)

事業内容

災害時の市民の生活を支援するため、緊急物資の備蓄を行う。

実施方法

■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	3,268	3,268	3,268		
	(b)予算現額	3,268	3,268	3,268		
	(c)増減額(b-a)	0	0	0		
	(d)繰越額	－	－	－		
	A. 計(b+d)	3,268	3,268	3,268		
B. 執行済額		5,024	3,268	3,263		
うち交付金充当額		4,019	2,614	2,610		
次年度繰越額		－	－	－		
執行率（%）(B/A)		153.7%	100.0%	99.8%		

予算の状況の説明：当初予定していた、衛生用品の購入費用を、食料や災害用毛布を購入する費用に変更した。

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 26年度	27年度	28年度	29年度
緊急物資の備蓄	目　標	(　5000人分　)	(　)	(　)	(　)
	実　績	7660食			
	目　標	(　)	(　)	(　)	(　)
	実　績				

達成状況説明：非常食の目標として5000人分と記載していましたが、5000食分の誤りです。
今年度は、①毛布365枚、②飲料水2L　616本、③アルファ化米　おかゆ1000食、④アルファ化米　わかめ4,500食、⑳アルファ化米　梅かゆ1500食、㉑保存用ビスケット660食を購入した。

成果目標(指標)及び進捗状況

H26成果目標(指標)		基準値(　年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(　年度)
緊急物資5000人の備蓄 ①非常食:5000人分	目　標	(　)	(　5000人分　)	(　)	(　)	(　)
	実　績		7660食			
緊急物資5000人の備蓄 ②毛布:300枚 その他、衛生用品等	目　標	(　)	(　毛布300枚、その他、衛生用品等　)	(　)	(　)	(　)
	実　績		毛布365枚			

進捗状況説明：非常食の目標として５０００人分（５０００食:1人1食）と記載していましたが、５０００食分の誤りです。
今年度の目標は5，０００食でしたが、計画目標まで不足しているので7，６６０食導入しました。
食料の備蓄目標を約２７，５００食としており、平成２６年度は7，６６０食導入できたことから、約７０％（合計　約１９，２００食）の備蓄を達成した。
その他衛生用品等は、防災センターで訓練と通して必要と思われる物資を検討したかったが、防災センターの完成、運用開始が3月下旬だったことから、訓練日程がとれず住民との検討が出来ませんでしたので、購入を見送りました。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・衛生品の備蓄については、与那覇地区防災センターで住民と訓練を通しながら検討する予定だったが、訓練が出来ず地元住民と検討が出来なかった。そのため、不足している災害用毛布、食料品を購入した。 ・平成２７年度で備蓄は完了する予定だが、食料品については賞味期限があるので、管理に注意しなければならない。	・昨年は与那覇地区防災センターの完成後に訓練を実施予定でしたが完成が遅れ、訓練が実施出来なかった為、住民との防災に関しての情報交換が出来なかったので今年度は行いたい。 ・食料品の賞味期限には注意し、訓練、講習会等で利用しながら、補充していく。

今後の取り組み方針

平成27年度は食料品について目標備蓄数に達するよう事業を進め、賞味期限が近い食品については訓練、講習会等で利用しながら防災教育、防災意識向上に役立て災害に備えていく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,263	3,263	2,610	653	0

宮古島市 ３，２６３千円 →需用費 ３，２６３千円 → 株式会社　善林堂 ３，２６３千円

（非常食及び毛布の購入）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は、指名競争入札にて選定しており、妥当であったと考える。 ○不用額は事業費の1%以内であり適正な規模であった。 ○費目については、消耗品費のみであり支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宮古島市

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	１－②	海抜表示設置事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－２－(4)－イ 災害に強い県土づくりと防災体制の強化
担当部課名	総務部　防災危機管理班	事業実施(予定)年度	平成24～27年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－１０－(2)

事業内容	市民が居住地付近の標高を的確に把握し、災害時に迅速に避難できるよう、海抜表示を市内各地区に設置する。
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	1,259	1,300	1,300		
	(b)予算現額	1,259	1,300	1,300		
	(c)増減額(b-a)	0	0	0		
	(d)繰越額	－	－	－		
	A. 計(b+d)	1,259	1,300	1,300		
B. 執行済額		1,259	1,297	1,231		
うち交付金充当額		1,007	1,037	984		
次年度繰越額		－	－	－		
執行率（%）(B/A)		100.0%	99.8%	94.7%		
予算の状況の説明		不用額69千円は、入札残によるものであり、当初計画していた事業について、一部変更があったが概ね計画通り実施した。				

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
海抜表示の設置	目　標	(　)	(　)	(　設置　)	(　)
	実　績			設置	
市内70箇所へ設置	目　標	(　６９箇所　)	(　７０箇所　)	(　７０箇所　)	(　)
	実　績	６９箇所	６６箇所	７５箇所	

達成状況説明：
市街地や海岸付近を中心に７５箇所へ設置した。
伊良部島大橋の開通にともない伊良部島への来島者が増えることが見込まれることから、活動目標の70箇所から5箇所を追加し設置した。
海抜表示を行うことにより、海抜を確認することができ速やかな避難の目安になる。

成果目標(指標)及び進捗状況

H26成果目標(指標)		基準値(　年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(27年度)
海抜表示板設置箇所数(累計) H２５　135箇所→H２６　205箇所	目　標	(　)	(　２０５箇所　)	(　)	(　)	(　261　)
	実　績		２１０箇所			
	目　標	(　)	(　)	(　)	(　)	(　)
	実　績					

進捗状況説明：
目標の205箇所を上回る210箇所に海抜表示版を設置することができた。海抜表示板設置することで、市民や観光客が普段の生活から海抜を確認でき、津波発生時に危険箇所であるとの認識を高め、速やかな避難につなげる。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	○沖縄県土木建築部宮古土木事務所においても避難看板設置計画があり、本事業との間で海抜表示板の設置個所が重複するおそれがあったため、設置箇所については、県道を含めた設置場所等を考慮し、沖縄県土木建築部宮古土木事務所と調整を図った。 ○市民や観光客が自分がいる場所の海抜を海抜表示板で確認することにより災害時の避難に役立ててもらうため、市内各地75箇所に海抜表示板を設置した。 ○海抜表示~~を~~板の設置は速やかな避難行動をとるための判断材料の1つであるが、市民が津波情報を受けてから避難まで、迅速に行動できるかどうかが課題である。	○設置箇所が重複しないよう宮古島市がこれまで取りつけた箇所の情報を沖縄県土木建築部宮古土木事務所へ提供した。今後、海抜表示板の保守･点検等が生じた場合も、沖縄県と連携を図る所存。 ○市民や観光客に対し、海抜の低い場所にいたときの効率的な避難行動等、防災に関する情報発信等を行い、意識向上に努める。

今後の取り組み方針

○平成２６年度までに２１０箇所の海抜表示が設置完了している。海抜表示については、沖縄県土木建築部宮古土木事務で避難所看板を６５箇所に設置している。
○当初目標としてた宮古島市全域に２６１箇所に達していることから事業完了とする。
○防災講演会を実施する際に、海抜の低い場所にいて津波情報を聞いたときどのような行動するべきかについて周知していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,231	1,231	984	247	0

宮古島市
１，２３１千円
→
委託料
１，２３１千円
→
株式会社
ネオ･プランニング
１，２３１千円
（海抜表示設置事業に係る委託業務）

資金の流れ、費目・使途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は、素材、工法等を考慮して指名競争入札方式で選定しており、妥当だと考えている。 ○不用額は事業費の6%以内であり適正な規模であった。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目･使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宮古島市

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	１－③	避難所看板設置事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－２－(4)－イ 災害に強い県土づくりと防災体制の強化
担当部課名	総務部　防災危機管理班	事業実施(予定)年度	平成26年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－１０－(2)

事業内容

本市が指定する避難所へ看板を設置することにより、避難所の把握と速やかな避難が出来る。

実施方法

□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
予算の状況	(a)当初予算額	14,867				
	(b)予算現額	14,867				
	(c)増減額(b-a)	0				
	(d)繰越額	－				
	A. 計(b+d)	14,867				
B. 執行済額		14,580				
うち交付金充当額		11,664				
次年度繰越額		－				
執行率（%）(B/A)		98.1%				

予算の状況の説明

不用額287千円は、入札残によるものである。
宮古島市地域防災計画に掲載されている避難所１０２箇所へ看板を設置するため事業を執行した。

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 26年度	27年度	28年度	29年度
避難所看板の設置	目　標	（　看板設置　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	看板設置			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明

避難所看板を設置するため、管理者に対し設置する旨の通知または、設置箇所について調整を行ったあと、避難所看板を102箇所に設置した。調整に当初の予定よりは、時間を要したが無事年度内に設置を完了することができた。

成果目標(指標)及び進捗状況

H26成果目標(指標)		基準値（年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（年度）
避難所看板設置箇所数 H２５　0箇所→H２６　102箇所	目　標	（　）	（　102箇所　）	（　）	（　）	（　）
	実　績		102箇所			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明

主に公共施設や地域の交流施設が避難所になっており、避難所看板を設置することで地域住民や観光客等への避難所周知の促進を図る。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	○平成２５年度、宮古島市地域防災計画の修正に伴い、避難場所についても見直しを行った。避難場所の指定はしたものの、市民や観光客に対して避難場所であることが周知できずにいたため、避難場所を把握してもらい、速やかな避難ができるよう、平成２６年度に避難所看板を設置した。 ○避難所看板の設置により周知することはできたが、市民や観光客の自ら率先して避難行動が行えるかが課題である。	○市民や観光客が自ら避難場所へ行動できるよう周知及び啓発をしていく。 ○学校、地域住民を対象の津波避難訓練のなかで、避難場所を明確にし周知、啓発に努める必要がある。

今後の取り組み方針

津波避難訓練を毎年実施しているが、多くの地域や団体に対して、自分たちの住んでいる場所の避難場所はどこであるか訓練をとおして意識向上を図る。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
14,580	14,580	11,664	2,916	0

宮古島市
１４，５８０千円
→
委託料
１４，５８０千円
→
株式会社
ネオ･プランニング
１４，５８０千円
（宮古島市避難所看板設置事業に係る委託業務(看板設置102箇所)）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は、素材、工法等を考慮し指名競争入札方式で選定しており、妥当だと考えている。 ○不用額は事業費の２％以内であり適正な規模であった。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目･使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宮古島市

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	１－⑤	池間地区防災センター整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－２－(4)－イ 災害に強い県土づくりと防災体制の強化
担当部課名	総務部　防災危機管理班	事業実施(予定)年度	平成26～27年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－１０－(2)

事業内容	海沿いに面した海抜の低い池間地区に津波避難施設を整備し、地域住民の災害時における避難場所を確保する。
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
予算の状況	(a)当初予算額	15,000				
	(b)予算現額	15,000				
	(c)増減額(b-a)	0				
	(d)繰越額	―				
	A. 計(b+d)	15,000				
B. 執行済額		11,518				
うち交付金充当額		9,214				
次年度繰越額		―				
執行率（%）(B/A)		76.8%				
予算の状況の説明		不用額3,482千円は、入札残によるものである。				

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 26年度	27年度	28年度	29年度
池間地区防災センターの実勢設計委託	目　標	(　実施設計　)	(　)	(　)	(　)
	実　績	実施設計			
	目　標	(　)	(　)	(　)	(　)
	実　績				

達成状況説明：公表されている成果目標の中の活動目標にある「実勢設計委託」は、記載が誤っており、「実施設計委託」が正しい表記となる。
池間地区住民の、災害時における避難場所としての防災センターの整備に向け、平成２６年度は実施設計を行った。

成果目標(指標)及び進捗状況

H26成果目標(指標)		基準値(　年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(　年度)
池間地区防災センターの実施設計完了	目　標	(　)	(　実施設計完了　)	(　)	(　)	(　)
	実　績		実施設計完了			
	目　標	(　)	(　)	(　)	(　)	(　)
	実　績					

進捗状況説明：防災センターを建設するため、平成２６年度は実施設計委託業務を完了した。今後の展開として平成２７年度内に施設の建設を目標としている。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	○建設する予定地について、地元の地域住民と協議を実施した。 ○池間島は、公民館･学校等の公共施設が浸水想定区域内であることや島への交通インフラが橋しかないことから、避難所の確保が容易ではないため防災センターを整備する。平成26年度は実施設計を行った。 ○計画当初は、池間島の全島民約700人を対象としていた。建設予定地が津波想被害定区域外であり、被害想定区域外は津波被害を受けにくいことから島民全員の収容は必要ないとして収容人数を見直した。 ○この島は、高齢者や修学旅行で民泊する子どもが多いため、災害時に速やかな避難行動ができるか課題がある。	○地域住民との協議の結果、建設予定地は、池間集落、学校、漁港の中央に位置しているため住民から特に意見はなかった。 ○収容人数は、津波浸水想定区域内の島民及び就業者等約３５０人に限定し、収容ができる建物に規模縮小した。当初計画から、事業実施にいたるまで予定地確定に時間を要したため、今後は早めに地域住民との協議を実施し調整を行う。 ○地域住民が連携して避難行動ができるような仕組みが必要である。

平成27年度は、実施設計を基に池間地区防災センターの建築を行う。また、施設の完成後は、避難訓練を実施し住民の災害についての意識向上を図っていく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
11,518	11,518	9,214	2,304	0

宮古島市 11，518千円 → 委託料 11，518千円 → (有)シモマサ設計 11，518千円

（池間地区防災センター整備にかかる設計委託業務）

資金の流れ、費目・使途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は指名競争入札にて選定しており、妥当であったと考える。 ○当初予定では約700人が収容できる施設を想定していたが、収容人数を見直し350人収容と規模縮小となったため不用額が23%生じている。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目･使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宮古島市

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-①	熱帯植物園再生事業		沖縄２１世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-ア
					観光リゾート産業の振興
担当部課名	観光商工局　商工物産交流課	事業実施(予定)年度	平成24～27年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)

事業内容	熱帯植物園の集客機能を向上させる為、遊歩道の設置と熱帯花木の植栽等を実施し、集客力のある施設として再生を図る。
実施方法	■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	3,000	55,000	57,038		
	(b)予算現額	2,657	60,400	57,038		
	(c)増減額(b-a)	▲ 343	5,400	0		
	(d)繰越額	―	―	―		
	A．計(b+d)	2,657	60,400	57,038		
B．執行済額		2,657	59,726	47,938		
うち交付金充当額		2,125	47,780	38,350		
次年度繰越額		―	―	―		
執行率（%）(B/A)		100.0%	98.9%	84.0%		

予算の状況の説明：不用額9,100千円については、平成25年度に26年度実施予定園路整備の内0.2km分の園路の擁壁造成･路盤整備作業を前倒しで行ったこと、及び、管理技術委託内容の見直しによるものであり、当初計画していた事業内容は実施しており、達成状況を鑑みても適正であったと考える。

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
熱帯植物園内集客機能の向上 遊歩道の整備:0.7km(総延長1.4km)	目　標	(　1km　)	(遊歩道の整備:0.5km)	遊歩道の整備:0.7km(総延長1.4km)	(　)
	実　績	工事設計作成	遊歩道の整備:0.8km	遊歩道の整備:0.8km	
	目　標	(　)	(　)	(　)	(　)
	実　績				

達成状況説明：熱帯植物園の機能向上を目的として、遊歩道の整備･熱帯花木･果樹の植栽を実施した。
平成25年度と26年度の遊歩道整備の合計が1.6km(=0.8km+0.8km)で総延長1.4kmより大きくなっているが、これは平成25年度工事の一部未舗装部分(0.2km)の舗装整備を行ったためである。
　遊歩道において、歩行が困難な状況及び管理車両が入れない状態であったが、整備を実施した事により誘客施設として機能向上につながった。平成27年度4月から供用開始している。

成果目標(指標)及び進捗状況

H26成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
熱帯植物園の来客数の増加 H24 50,600人→H26 52,500人	目　標	(　)	(45,000人)	(50,000人)	(52,500人)	(　)
	実　績		50,615人	51,721人	36,870人	
	目　標	(　)	(　)	(　)	(　)	(　)
	実　績					

進捗状況説明：来客数について、平成26年度は36,870人で目標52,500人にたいして15,630減(達成率70%)となった。園内にある体験工芸村各工房従業員に依頼して工芸村各工房の来客者数と各工房体験メニュー利用者数の計測を行っており、各工房来客数　来園者数と推定して計上していた。これまで体験メニュー利用者は平成24年度は7,780人、平成25年度は7,828人、平成26年度は8,017人と平成25年度までは来園者数と共に順調に増加していたが、平成26年度は来客数減少となり、上記2者の相関関係が見られない現象が起きている。この理由として、観光バス等団体来園者の場合、通常1～2時間程度の滞在時間となっているが、平成26年度は「花いっぱい運動」の一環として園内の花木等の植え付けを行っており園内散策に割く時間が増加して工房を訪れる時間がない来園者がいると推定している。各体験メニュー利用希望者と園内散策希望者のニーズが明確に分かれたのではないかと分析している。よって、入域観光客者数も年々増加している状況から平成26年度の来園者数は、集計結果としては目標未達成であるが、これまでの集計方法で捕捉できていない多数の来園者がいると考えている。

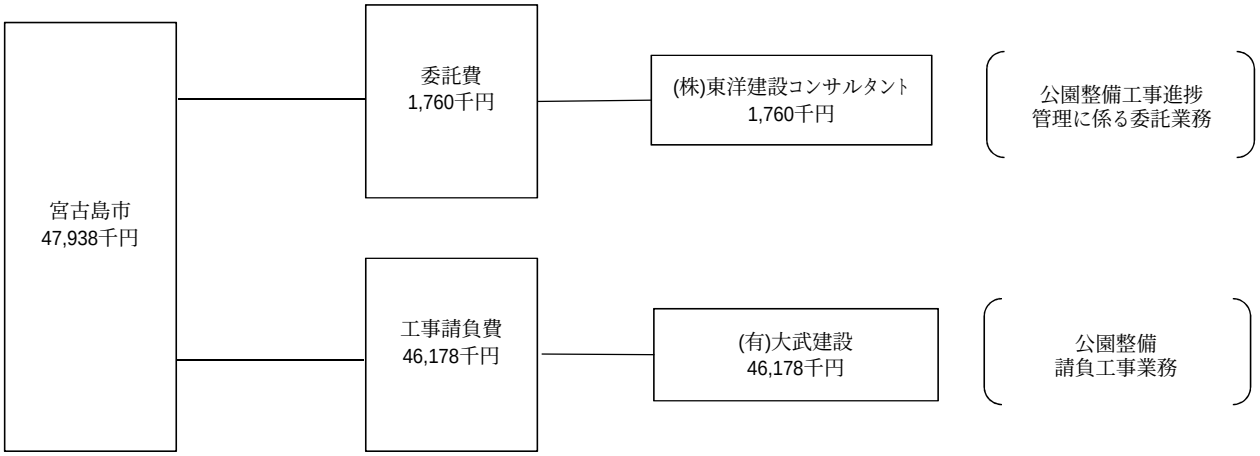
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	○事業を執行していく中において特に問題は無かったが、来園者数の集計に利用している、体験工芸村来客数と体験メニュー利用者数の相関関係が見られない現象がおきている。園内の施設整備や「花いっぱい運動」による花木の植栽等により園内散策と体験工房利用に割く時間割合が変化し工房を訪れない来園者が増加していると思われ、従来の集計方法では捕捉できない来場者が多数いると推定される。 ○スカイマーク社那覇-宮古路線の廃止による入域観光者数への影響（減少）し、当園においても観光客来場数の減少が予想される。 ○伊良部大橋開通に伴い観光客の注目が大橋や伊良部島に集まり観光経路が伊良部島周辺に偏ることが予想される。	より信頼性の高い来園者集計方法の検討・実施が必要と考えられ、従来の集計に加えイベント来場者の計上などを行う。 成果目標である来客数の増加について、入域観光客数の減少及び観光経路の偏りへの改善策として島内観光ガイドブック（フリーペーパー）への植物園の広告掲載、園内施設充実、及び関連機関（観光協会等）との連携による誘客イベントの実施等が必要と考えられる。

今後の取り組み方針

熱帯植物園整備工事は平成26年度で完了した。
来客数の増加にむけて、宮古島市の入域観光客数は好調であるので、季節の草花や熱帯花木・果樹の植栽を行い園内施設充実を行う。また、関連機関（観光協会等）との連携による「顧客参加型謎解き公演」などの新たな誘客イベントの実施等について検討する。
現行の集計方法と並行して、イベント来場者の計上など新たな集計方法を検討する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
47,938	47,938	38,350	9,588	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託及び工事事業者は指名競争入札を実施し、受託者を選定しており、妥当であったと考える。 ○活動目標は達成しており、予算規模においては、執行率が84.0%と低い数値となっているが、平成25年度に26年度実施予定園路整備の内0.2km分の園路の擁壁造成・路盤整備作業を前倒しで行ったこと、及び、管理技術委託内容の見直しによるものであり、当初計画していた事業内容は実施しており適正であったと考える。 ○費用・使途については、完了検査にて確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宮古島市

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	２－②	伊良部島･下地島間入江整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第5章－3－(4)－ウ 圏域の特色を生かした産業の振興
担当部課名	伊良部支所　地域づくり課	事業実施(予定)年度	平成24～29年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)
事業内容	伊良部島･下地島間の入江を観光資源として最大限に活用するため、周辺水域の水路作澪、希少生物の調査並びに排水処理施設の実施設計を行う。				
実施方法	■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況 (a)当初予算額	4,700	5,750	50,000		
予算の状況 (b)予算現額	4,700	25,620	50,000		
予算の状況 (c)増減額(b-a)	0	19,870	0		
予算の状況 (d)繰越額	－	－	－		
予算の状況 A．計(b+d)	4,700	25,620	50,000		
B．執行済額	4,515	25,095	43,401		
うち交付金充当額	3,612	20,076	34,720		
次年度繰越額	－	－	－		
執行率（%）(B/A)	96.1%	98.0%	86.8%		
予算の状況の説明	不用額が6，599千円発生しているが、工事費及び委託費の入札残であり予算は適正に執行された。				

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 26年度	27年度	28年度	29年度
水路作澪工事の施工	目　標	（　1区画　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	1区画			
希少生物調査の実施	目　標	（　希少生物調査　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	希少生物調査			
排水処理施設実施設計の実施	目　標	（　実施設計　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	実施設計			

達成状況説明

平成２６年度は、当該地域の観光活用に向け、伊良部島･下地島間入江排水処理施設設計、希少生物調査、不発弾調査業務(追加)及び伊良部島、下地島間水路作澪工事(1区画)を実施した。
作零箇所全体面積173,703㎡
平成２６年度完了作澪面積18,453㎡

成果目標(指標)及び進捗状況

H26成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
水路作澪工事(1区画)の完了	目　標	（　）	（　1区画　）	（　）	（　）	（　）
	実　績		1区画			
希少生物調査完了	目　標	（　）	（　希少生物調査完了　）	（　）	（　）	（　）
	実　績		希少生物調査完了			
排水処理施設実施設計完了	目　標	（　）	（　実施設計完了　）	（　）	（　）	（　）
	実　績		実施設計完了			

進捗状況説明

基本計画のとおり平成２６年度は、排水処理施設設計、希少生物調査、不発弾探査業務、水路作澪工事(1区画)を一部終了した。
平成２６年度の希少生物調査の結果を参考に、排水処理施設工事を平成２７年度以降に実施し、工事完了後は現在直接入江に流入していた雑排水をろ過し、入江に戻すことにより水質を改善し、再度希少生物の動向を調査していく。また、作澪工事は全体面積１７３，７０３㎡で平成２６年度で１８，４５３㎡完了した。作澪工事が完了することで入江全体の潮の流れが改善され、伊良部島･下地島間の入江を活用した観光及び児童生徒の体験学習の場所を提供できる。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	平成２６年度は、伊良部島･下地島間入江を観光資源として最大限活用するため、排水処理施設設計、希少生物、不発弾調査調査業務及び水路作澪工事（1区画）を実施した。 平成２６年度作澪工事を進めるにあたり、宮古島市の３漁協の同意と沖縄県知事の承認手続に時間を要した。また、不発弾探査業務の発注時期が遅く、作澪工事の完了時期が遅くなった。 作澪工事後の周囲の潮の流れと水環境の影響について観察していく必要がある。また、入江の水質向上の為に最低限必要な生活雑排水の処理施設の設置が必要であることから平成２９年度までに整備し、平成３０年度から入江を活用した観光資源、児童生徒の体験学習の場所を提供したい。	今後は、宮古島市の３漁協の同意と沖縄県知事の岩礁破砕承認申請手続きを早急に行い、不発弾探査業務を早期に発注することにより、事業の完了に遅れが生じないようにする。

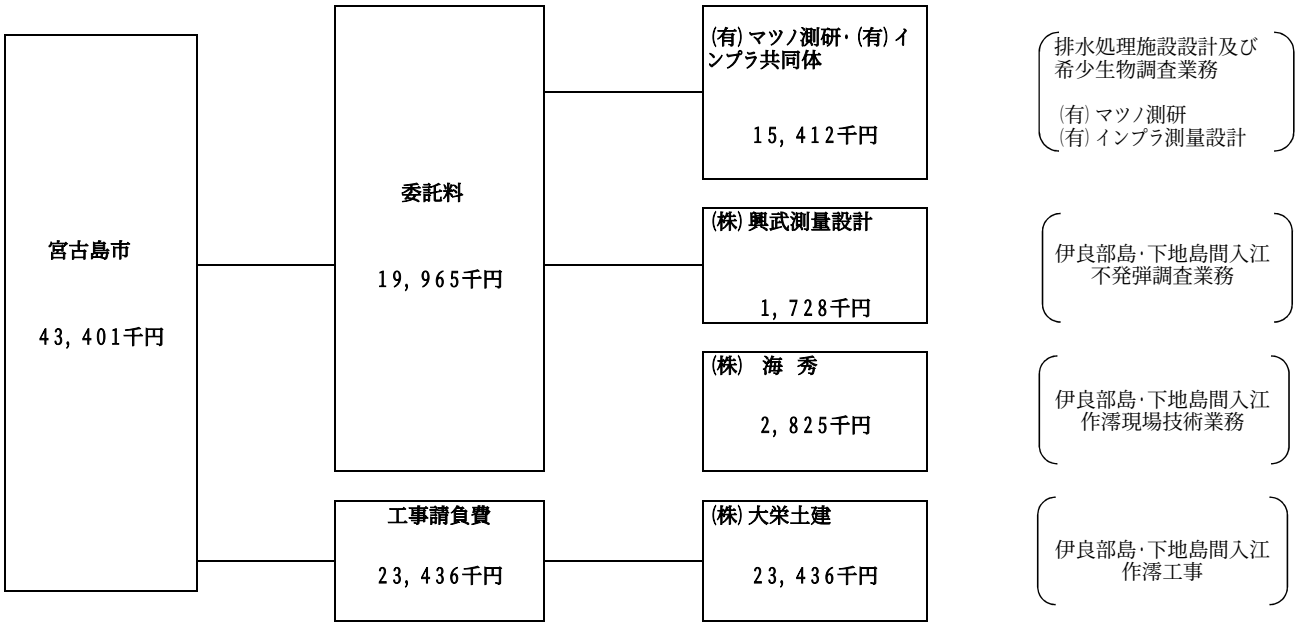
今後の取り組み方針

平成27年度は、作零工事及び排水処理施設工事を行うために宮古島市の３漁協の同意を得て、沖縄県知事に岩礁破砕申請を行う。知事の承認を得た後、平成２８年度から作零工事及び排水処理施設工事を実施していく。入江整備後は、干潮時でもカヤックが進入できるようになり、活用の幅が広がる。観光協会、ＮＰＯ法人いらうゆう等とも連携し、観光客誘致に取り組む。

平成３０年から入江を活用した観光資源、児童生徒の体験学習の場所を提供したい。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
43,401	43,401	34,720	8,681	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は、全て宮古島市建設工事等入札事務処理要項により、指名競争入札を経て選定しており妥当である。 ○予算規模は、集排水事業及び委託業務積算基準を適用しており適正である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目･使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目は。委託料、工事費のみであり必要なのもに限定されている。

市町村名	宮古島市

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	２－③	宮古島市neo歴史文化ロード整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(2)－ア 国際的な沖縄観光ブランドの確立
担当部課名	生涯学習部生涯学習振興課	事業実施(予定)年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)

事業内容

現在、平良地区に展開している歴史文化ロード「綾道(あやんつ)」を拠点とし、旧市町村の各地域に所在する「宮古島らしさ」に特化した文化財を中心とする散策コース等の整備を行い、伝説と民話に彩られたロマン溢れる「宮古島特異の歴史と文化」を巡る新たな観光資源の一つとして広く活用する。

実施方法

■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	38,000	29,450	78,500		
	(b)予算現額	38,000	72,742	78,500		
	(c)増減額(b-a)	0	43,292	0		
	(d)繰越額	－	－	－		
	A. 計(b+d)	38,000	72,742	78,500		
B. 執行済額		37,998	72,735	78,487		
うち交付金充当額		30,398	58,188	62,789		
次年度繰越額		－	－	－		
執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%	100.0%		
予算の状況の説明		当初計画していた業務は全て実施し、併せて文化財復元を1件追加で実施したところ、執行率は概ね100%であり適切に執行されている。				

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 26年度	27年度	28年度	29年度
コースパンフレットの作成委託	目　標	（パンフレット作成）	（　）	（　）	（　）
	実　績	パンフレット作成			
案内板等の設置委託	目　標	（案内板等15基の設置）	（　）	（　）	（　）
	実　績	案内板等16基の設置			
御嶽等への標柱設置委託	目　標	（標柱10本設置）	（　）	（　）	（　）
	実　績	標柱3本設置			
戦争遺跡への標柱設置委託	目　標	（標柱10本設置）	（　）	（　）	（　）
	実　績	標柱16本設置			
土地購入に係る交渉及び各種手続き	目　標	（土地購入）	（　）	（　）	（　）
	実　績	土地購入			
ウイピャームトゥの祭場籠屋復元委託	目　標	（祭場籠屋復元）	（　）	（　）	（　）
	実　績	祭場籠屋ウイウスムトゥ1棟復元			

達成状況説明

・散策パンフレットについては、綾道宮国・新里コースを12,000部作成した。
・標柱及び案内板等の設置状況については、コース案内板と戦争遺跡標柱は目標以上となった。また、御嶽等には旧市町村で設置した木製の標柱が残っているが、戦争遺跡については標柱等のサインが一切無かったため、御嶽等への標柱設置を減らし、戦争遺跡への標柱設置を増やした。
・土地購入については、本事業で策定の綾道平良北コースの中心となる「旧家忠導氏仲宗根家」に建物復元を計画しているため、旧家が所在した敷地約500坪を買い上げた。
・ウイピャームトゥの祭場籠屋については、ウイウスムトゥ1棟を復元した。

成果目標（指標）及び進捗状況	H26成果目標（指標）		基準値（　年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（33年度）
	コースパンフレットの作成配布	目　標	（　　）	（12,000部）	（　　）	（　　）	（12,000部/コース）
		実　績		12,000部			
	コース案内板等の設置箇所（累計）	目　標	（10基）	（15基）	（　　）	（　　）	（計300基）
		実　績		16基			
	御嶽等への標柱設置箇所（累計）	目　標	（0本）	（10本）	（　　）	（　　）	（50基）
		実　績		3本			
	戦争遺跡への標柱設置（累計）	目　標	（　　）	（10本）	（　　）	（　　）	（30基）
		実　績		16本			
	土地の購入	目　標	（　　）	（1件）	（　　）	（　　）	（1件）
		実　績		1件			
	ウイピャームトゥの祭場籠屋復元	目　標	（　　）	（1棟復元）	（　　）	（　　）	（3棟）
		実　績		1棟復元			
	文化財WEB公開システムポータルサイトアクセス数	目　標	（　　）	（5,000件）	（　　）	（　　）	（5,000件/年）
		実　績		3,600件			
	進捗状況説明	・散策パンフレットについては、綾道宮国・新里コースを12,000部作成し、宮古島市役所各庁舎案内窓口及び民間ボランティアガイド団体等に配布した。 ・標柱及び案内板等の設置状況については、宮国・親里コース内において、御嶽等には旧市町村で設置した木製の標柱が残っているが、戦争遺跡については標柱等のサインが一切無かったため、御嶽等への標柱設置を減らし、戦争遺跡への標柱設置を増やした。 ・土地購入については、本事業で策定の綾道平良北コースの中心となる「旧家忠導氏仲宗根家」に建物復元を計画しているため、旧家が所在した敷地約500坪を買い上げた。 ・ウイピャームトゥの祭場籠屋については、ウイウスムトゥ1棟を復元した。 ・平成25年度に運用を開始した、宮古島市文化財WEB公開システムアプリケーション「綾道」は、対応QRコードをアプリケーション導入サイトへの導入を並行するよう更新を行ったが、ポータルサイトの周知が不足したためか、目標値に達することができなかった。					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・ウイピャームトゥの祭場籠屋は3棟で構成されており、今年度はそのうちウイウスムトゥ1棟の復元を実施したが、資材確保の時期が遅くなったため、完了が年度末となった。 ・文化財WEB公開システムの構築については、各文化財の紹介や説明が専門的な内容に偏らないよう、常に幅広い対象層が「親しみやすい」「わかりやすい」「使いやすい」ものとなるよう留意しているが、このシステムの周知方法が弱く、アクセス数が目標値に達成できなかった。	・ウイピャームトゥの祭場籠屋の復元については、2棟分の資材を早期に確保できるよう、契約時期を早めるようにしたい。 ・文化財WEB公開システムの構築については、親しみやすさ、わかりやすさ、使いやすさは充実していたが、システムの周知方法について、市内で配布されている観光ガイドブックやフリーペーパーへの掲載等を行っていきたい。

今後の取り組み方針

・物件の清掃については、通年での観光需要に資するために必要な範囲（年6回程度）で実施する。
・案内板及び標柱等の設置について、サイン標示のない文化財等を優先して、設置累計増を目指して取り組む。
・ウイピャームトゥの祭場籠屋を含め、石造文化財等を中心に毀損著しい文化財があり、活用のための復元整備を進めていきたい。
・文化財WEB公開システムについては、各年度で整備するコースや新たなコンテンツの追加更新を行い、ポータルサイト及びアプリケーションで現在表示している英語及び中国語以外の外国語についても今後表示を進め、ポータルサイト及びアプリケーションの多言語化を図る。
・平成27年度は、沖縄戦後70年の節目にテーマを絞り、戦争遺跡散策コース（仮）の策定整備を行う。

資金の流れ

（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
78,487	78,487	62,789	15,698	0

宮古島市
78,487千円

- 需要費 1,188千円
  - 文進印刷株式会社 1,188千円 （パンフレット印刷製本に係る請負業務）
- 委託料 28,538千円
  - 宮古森林組合 3,170千円 （文化財の復元業務委託 ウイピャームトゥの祭場籠屋（ウイウスムトゥ）1棟）
  - 宮古織物事業協同組合 3,500千円 （無形民俗文化財資料の製作 友利・砂川・荷川取クイチャー衣装）
  - 宮古テレビ株式会社 1,999千円 （公開システムに係る映像コンテンツ作成業務委託 各文化財の映像資料の制作）
  - 宮古島市シルバー人材センター 2,778千円 （物件環境整備に係る業務委託 平良北、下地地区の2件）
  - 個人（イラストレーター） 1,500千円 （散策パンフレットデザインレイアウトに係る業務委託）
  - 株式会社八島建設コンサルタント 8,964千円 （宮古島市WEB公開システムの追加更新（GIS及び公開システム並びにシステム台帳））
  - エコ・ライフ宮古 102千円 （コース環境整備に係る業務委託 文化財建造物西ツガ墓の環境整備）
  - 城南開発 1,090千円 （コース環境整備に係る業務委託 金志川・嶺間御嶽、瑞福隧道、砂川・友利の環境整備）
  - サン美術 5,358千円 （案内板等制作設置に係る業務委託）
  - 下地明良司法書士事務所 77千円 （土地購入に係る登記移転業務）
- 公有財産購入費 48,761千円
  - 個人 48,761千円 （拠点文化財の土地購入）

資金の流れ、費目・使途の点検評価

評価	点検項目	評価に関する説明
○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託・請負事業者は、文化財の特性上、業務には高度な専門性・技術が求められることを鑑みて、伝統茅葺きの技術者を有する宮古森林組合、特殊技法を用いて着物を製作する宮古織物事業協同組合、市内文化財の測量成果を有しかつGIS技術で独自のシステムを所有するコンサルタント業者、映像コンテンツ制作は映像資料を唯一有する宮古テレビ、説明板等はUVカットシート圧接特殊加工技術を有する製作業者等で選定しており、地方自治法施行令167条の2第2項に該当し適正であったと考えている。また、環境整備業務は宮古島市シルバー人材センターに委託しており地方自治法施行令167条の2第1項第3号に該当し適正であったと考えている。 ○予算規模について、土地購入があり高額となっているが、鑑定評価等も事前に行っておりまた、その他の事業についても、特殊業務は事前に見積書を徴取するなどしており適正であると考えている。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宮古島市

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	２－⑤	城辺総合公園機能強化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－2－(1)－イ 「スポーツアイランド沖縄」の形成
担当部課名	建設部　都市計画課	事業実施(予定)年度	平成26年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)

事業内容	毎年2～3月にかけて社会人･大学･高校の野球チームがキャンプ使用している城辺総合公園を、ブルペン等施設整備を行い充実させる。
実施方法	■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
予算の状況	(a)当初予算額	20,000				
	(b)予算現額	22,284				
	(c)増減額(b-a)	2,284				
	(d)繰越額	－				
	A. 計(b+d)	22,284				
B. 執行済額		20,647				
うち交付金充当額		16,517				
次年度繰越額		－				
執行率（%）(B/A)		92.7%				

予算の状況の説明：増額の2,284千円は、本工事請負費への流用で、不用額1,637千円については、委託及び工事の入札残によるものである。

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 26年度	27年度	28年度	29年度
ブルペン等整備	目　標	(　1施設　)	(　)	(　)	(　)
	実　績	1施設			
	目　標	(　)	(　)	(　)	(　)
	実　績				

達成状況説明：城辺総合公園球場の東側駐車場の一部においてボーリング調査を行い、平成27年3月に建築面積247.51㎡　S造平屋建のブルペン建設工事を完了した。

成果目標(指標)及び進捗状況

H26成果目標(指標)		基準値(　年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(　年度)
稼働月数の増加 2月～3月→12月～3月	目　標	(　)	(12月～3月)	(　)	(　)	(　)
	実　績		2月～3月			
	目　標	(　)	(　)	(　)	(　)	(　)
	実　績					

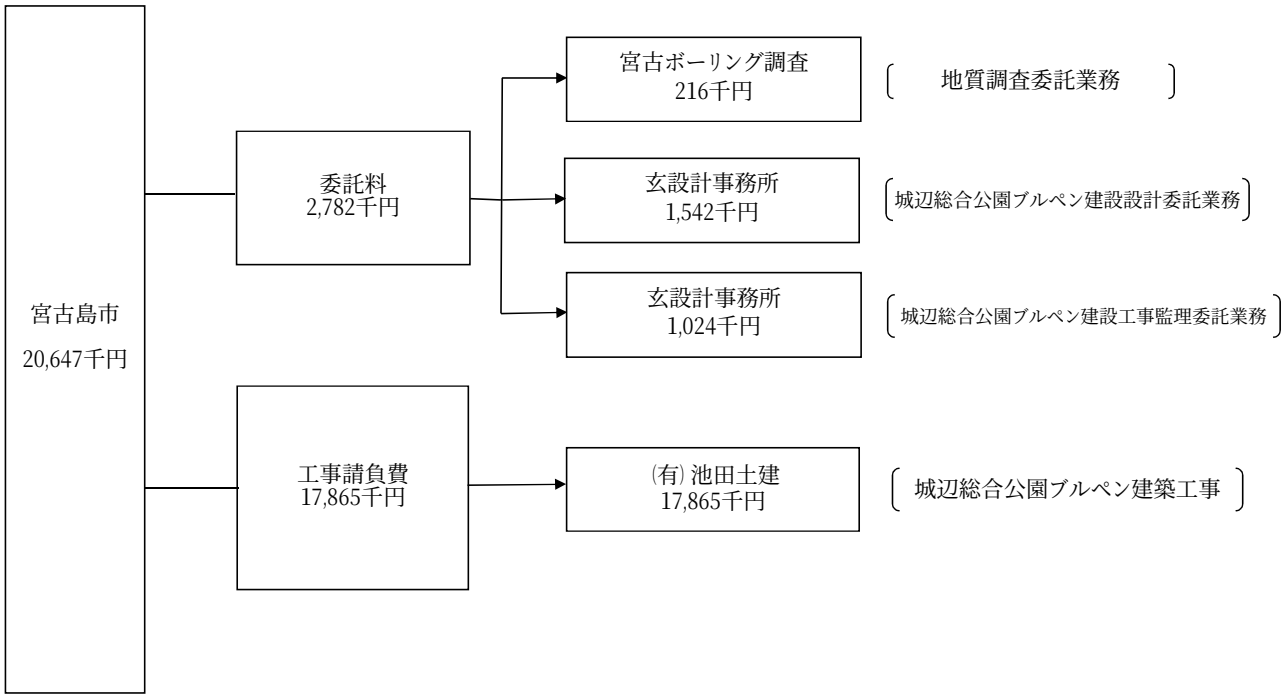
進捗状況説明：宮古島をキャンプ地として検討するための視察で、要望が最も多かったブルペンの整備については、城辺総合公園機能強化事業において平成27年3月に整備したが、成果目標である稼働月数の増加(2月～3月→12月～3月)については、事業実施につき、一定期間施設を使用不可としていたため、達成できなかった。翌年の平成27年度より稼働月数の増加を目指していく。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・宮古島をキャンプ地として検討するための視察で、要望のあった中で最も多かったブルペン施設を、城辺総合公園内野球場で現在2月～3月にかけてキャンプを行っているチーム以外の社会人・大学・高校の野球チームを12月～1月にも誘致出来るように平成26年度に整備した。 ・最も要望の多かったブルペン施設を整備したので、今後のキャンプ誘致活動において、そのことを積極的にPRしていく必要と、その他の要望にどう対処していくか課題となる。	・宮古島にキャンプ視察に訪れた企業及び学校関係者に、ブルペンが整備されたことを周知するとともに、宮古島市のホームページ上でのPRを行う。 ・その他の要望に対しては、全体的な整備計画を見直し段階的に整備を行う必要がある。

12月～3月にかけてのキャンプ誘致に向けて、宮古島のキャンプ環境のPRをホームページ上に掲載し、宮古島をキャンプ地として検討している団体への誘致活動を積極的に行っていく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
20,647	20,647	16,517	4,130	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○地質調査委託事業は随意契約で、その他の事業は指名競争入札方式により企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。 ○予算は、3社見積や建築積算基準に基づき積算しており、不用額は入札残によるもので適正な規模と考える。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宮古島市

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-⑦	宮古島市スポーツ施設機能向上事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(1)-イ 「スポーツアイランド沖縄」の形成
担当部課名	生涯学習部　市民スポーツ課	事業実施(予定)年度	平成26年～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)
事業内容	宮古島市スポーツマネジメントプランに基づき、大規模スポーツイベントや大会が開催できる環境やプロスポーツチームのキャンプ地にふさわしい環境を目指し、スポーツ施設の機能強化及び施設整備等を行う。				
実施方法	■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
予算の状況	(a)当初予算額	15,700				
	(b)予算現額	15,700				
	(c)増減額(b-a)	0				
	(d)繰越額	-				
	A. 計(b+d)	15,700				
B. 執行済額		15,228				
うち交付金充当額		12,182				
次年度繰越額		-				
執行率（%）(B/A)		97.0%				
予算の状況の説明		不用額が472千円発生しているが、工事費及び委託費の入札残であり予算は適正に執行された。				

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 26年度	27年度	28年度	29年度
防球ネットの整備設計委託･工事	目　標	（防球ネット整備設計･工事）	（　）	（　）	（　）
	実　績	防球ネット整備設計･工事完了			
ブルペン整備設計委託	目　標	（実施設計）	（　）	（　）	（　）
	実　績	実施設計完了			

達成状況説明：防球ネット整備設計委託業務が10月、防球ネット整備工事が1月に完了し、ブルペン建設工事設計委託業務が3月に完了した。

成果目標(指標)及び進捗状況

H26成果目標(指標)		基準値（年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（年度）
防球ネットの整備完了	目　標	（　）	（防球ネット整備工事）	（　）	（　）	（　）
	実　績		防球ネット整備工事完了			
ブルペン整備設計完了	目　標	（　）	（実施設計完了）	（　）	（　）	（　）
	実　績		実施設計完了			

進捗状況説明：計画どおりキャンプ予定日の2月までに防球ネット整備工事が完了し、安全面が確保できた。ブルペン建設工事の実施設計が完了したので、来年度以降の建設をめざし、スポーツ施設の機能強化を図る。

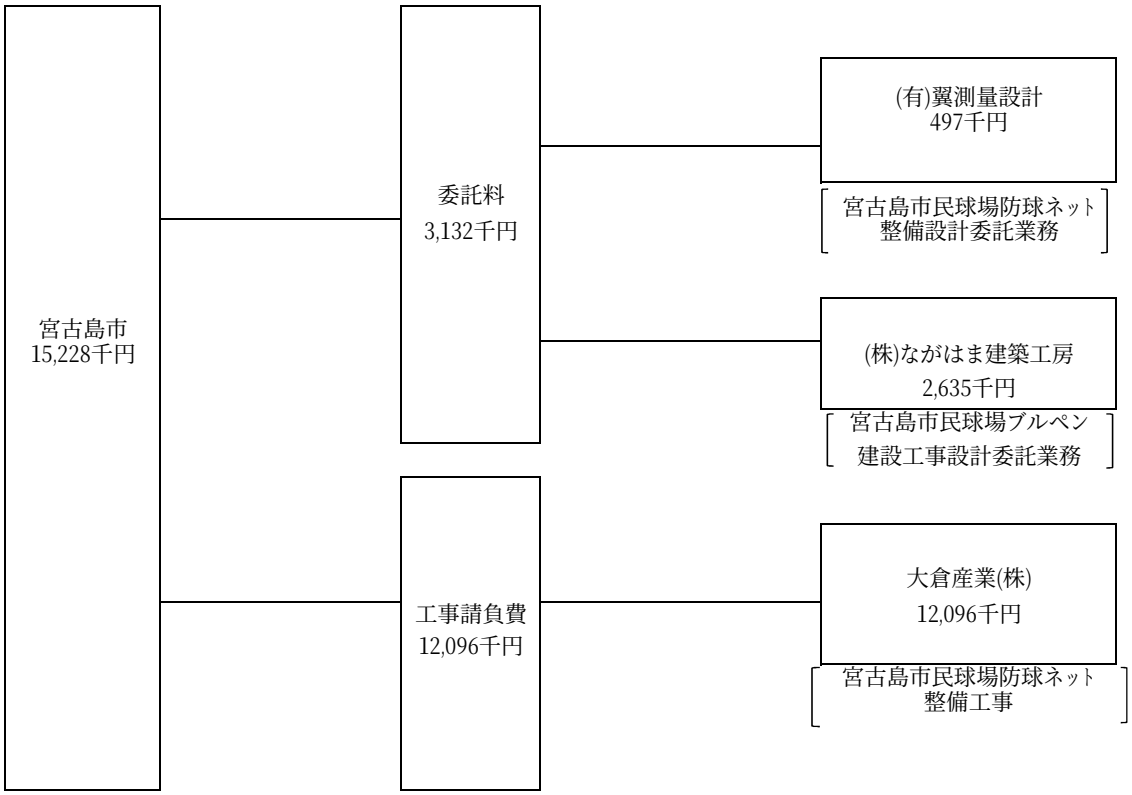
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	宮古島市スポーツマネジメントプランに基づき、大規模スポーツイベントや大会が開催できる環境やプロスポーツチームのキャンプ地にふさわしい環境を目指し、スポーツ施設の機能強化及び施設整備等を行うため、平成26年度は、防球ネットの整備工事、ブルペン整備設計を行った。 防球ネット整備設計委託・工事、ブルペン整備設計委託では、不用額が472千円発生したが、入札残であり予算は適正に執行され、発注した事業は工期内に完了し、完成検査でも特に指摘もなく検査を終えたため、課題や問題点もなく事業を実施することができた。	平成26年度に実施した事業では、当初から計画していたプロ野球キャンプ予定日までに防球ネット整備工事が完了し、球場を訪れるファンの方や市民の安全を確保することができたため、改善点はないものと考える。

今後の取り組み方針

今後も宮古島市スポーツマネジメントプランに基づき、スポーツ施設の機能強化及び施設整備等を行っていくため、平成27年度は、市民球場・多目的前福運動場の芝生の改善を行う。また、ブルペン建設の実施設計が完了しているため、ブルペンの早期建設に向けて取り組んでいきたい。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
15,228	15,228	12,182	3,046	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○設計委託業者・工事請負業者は、指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 ○不用額は、事業費の3％以内であり適正な規模であった。 ○費目・使途については、事業目的達成の観点から必要なものなのか等について、額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宮古島市

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	３－①	観光地アクセス道路環境美化強化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第３章-３-(2)-ウ 観光客の受入体制の整備
担当部課名	建設部道路建設課	事業実施(予定)年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－１－(1)

事業内容

美しい島づくりを推進するため、観光地へのアクセス道路の環境美化を図る。

実施方法

■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	24年度(繰越)	25年度	26年度	27年度
予算の状況	(a)当初予算額	37,770	－	27,405	30,889	
	(b)予算現額	35,119	－	27,405	30,889	
	(c)増減額(b-a)	▲ 2,651	－	0	0	
	(d)繰越額	－	17,528	－	－	
	A. 計(b+d)	35,119	17,528	27,405	30,889	
B. 執行済額		17,184	10,974	23,845	29,647	
うち交付金充当額		13,274	8,779	19,076	23,717	
次年度繰越額		17,528	－	－	0	
執行率（%）(B/A)		48.9%	62.6%	87.0%	96.0%	

予算の状況の説明

・年度途中の賃金職員の退職が数名おり、後任の確保までの間の賃金1,242千円が不用となった。

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 26年度	27年度	28年度	29年度
観光アクセス道路の環境美化作業	目　標	（　作業実施　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	作業実施			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明

・宮古本島地区において賃金12名、伊良部地区において賃金11名を雇用し、観光地へのアクセス道路３３路線の清掃を実施し環境美化を図った。

成果目標(指標)及び進捗状況

H26成果目標(指標)		基準値（年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（年度）
観光アクセス道路の環境美化路線数(33路線)	目　標	（３３路線）	（３３路線）	（３３路線）	（３３路線）	（　）
	実　績		３３路線	３３路線	３３路線	
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明

・宮古島市の主要観光地へのアクセス道路環境美化を図るため、33路線を選定する。
・宮古本島地区及び伊良部地区においても、成果目標で掲げた33路線の清掃を実施しており、目標は達成している。
・清掃作業を継続することで、主要観光地へのアクセスがスムーズになり観光客の受入体制の整備が図られつつある。

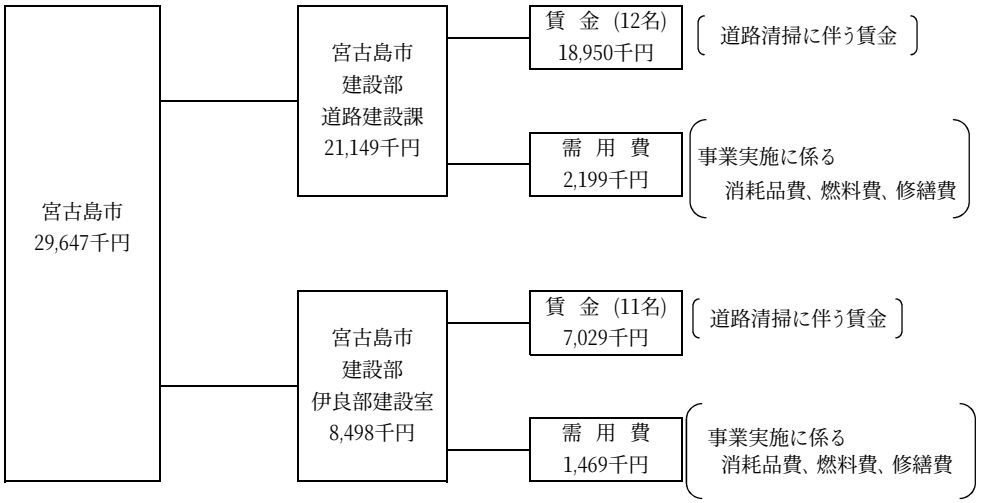
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	･観光客の受入体制を整備するため観光地へのアクセス道路の環境美化を図っている。 ･伊良部地区においては、来島する観光客数が限られていたこともあり、観光客の多い7～8月、イベントの実施される2月等に併せて各路線の清掃作業を年1回実施しているが、平成27年1月に伊良部大橋が開通したことに伴い、観光客の大幅な増加が見込まれていることから、清掃回数を増やし受入体制を強化する必要がある。	･伊良部大橋の開通に伴い大幅な観光客の増加が見込まれている伊良部地区については、宮古本島同様年3～4回の清掃を実施することにより受入体制を強化する。

今後の取り組み方針

平成27年1月の伊良部大橋開通に伴い観光客の大幅な増加が見込まれることから、平成27年度より伊良部地区においても宮古本島同様に年間3～4回の清掃を行い観光客の受入体制の整備を図り、宮古地域への観光客増加を推進する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
29,647	29,647	23,717	5,930	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○賃金職員は、本市条例･規則に基づき審査、決定しており、妥当である。 ○不用額は、4%以内であり適正な規模である。 ○費目、使途については、支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目･使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宮古島市

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3－②	観光地公園環境美化強化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－1－(6)－イ 花と緑あふれる県土の形成
担当部課名	建設部都市計画課 伊良部支所地域づくり課	事業実施(予定)年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)
事業内容	美しい島づくりを推進するため、観光地として利用されている公園の環境美化を図る。				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	4,870	11,985	20,466		
	(b)予算現額	4,740	11,985	18,182		
	(c)増減額(b-a)	▲ 130	0	▲ 2,284		
	(d)繰越額	－	－	－		
	A. 計(b+d)	4,740	11,985	18,182		
B. 執行済額		4,740	11,985	17,669		
うち交付金充当額		3,792	9,588	14,135		
次年度繰越額		－	－	－		
執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%	97.2%		
予算の状況の説明		・当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。 ・増減額の2,284千円は他事業への流用である。 ・不用額513千円は、入札残によるものである。				

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 26年度	27年度	28年度	29年度
観光地公園の環境美化作業	目　標	（環境美化作業実施）	（　）	（　）	（　）
	実　績	環境美化作業実施			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：宮古島観光地公園5ヶ所(東平安名崎公園・パイナガマ公園・カママ嶺公園・大嶽城址公園・サニツ浜公園)においては、それぞれ月1回以上の美化作業を実施した。
伊良部島観光地公園7ヶ所(サバオキ公園・フナウサギバナタ・白鳥公園・通り池・佐和田の浜・渡口の浜・牧山公園)においては、以下のとおり美化作業を実施した。
サバオキ公園:5回、フナウサギバナタ:6回、白鳥公園:5回、通り池:5回、佐和田の浜:5回、渡口の浜:5回、牧山公園:5回

成果目標(指標)及び進捗状況

H26成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
観光地の公園の環境美化箇所数　東平安名崎公園・パイナガマ公園・カママ嶺公園等6箇所	目　標	（　）	（3ヶ所）	（4ヶ所）	（6ヶ所）	（　）
	実　績		3ヶ所	4ヶ所	12ヶ所	
定期的美化作業:年4回～年12回(月1程度)を目標	目　標	（　）	（月1回以上）	（月1回以上）	（年4回～12回）	（　）
	実　績		月1回以上	月1回以上	年4回～12回	

進捗状況説明：宮古島観光地公園の5ヶ所(東平安名崎公園・パイナガマ公園・カママ嶺公園・大嶽城址公園・サニツ浜公園)を月1回以上の作業及び伊良部島観光地公園7箇所(サバオキ公園、フナウサギバナタ、白鳥公園、通り池、佐和田の浜、渡口の浜、牧山公園)は年4回以上の美化作業により、観光客の受け入れ体制を確保できた。

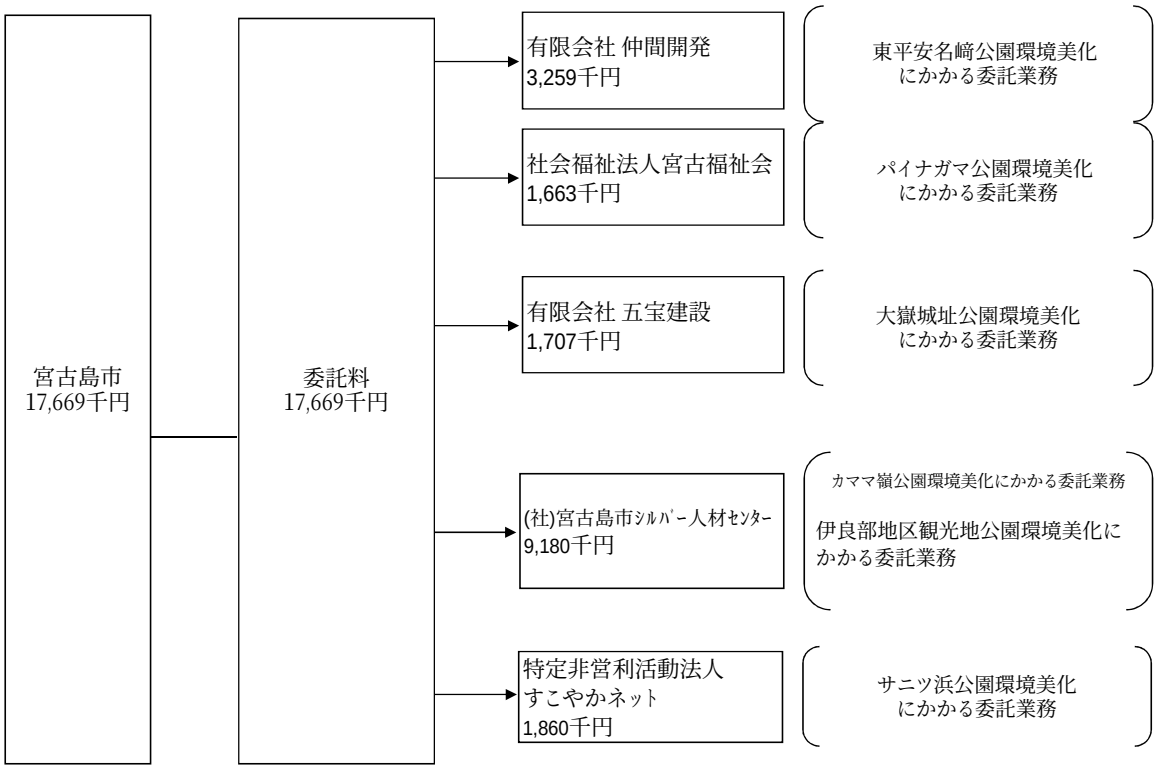
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	観光地として多く利用されている公園の環境美化を図るため、宮古島の観光地公園の5ヶ所（東平安名崎公園・パイナガマ公園・カママ嶺公園・大嶽城址公園・サニツ浜公園）について月1回以上の美化作業、観光地公園の7箇所（サバオキ公園、フナウサギバナタ、白鳥公園、通り池、佐和田の浜、渡口の浜、牧山公園）は年4回以上の環境美化を達成しており、現時点で美化作業の実施方法については特に問題ない。 ※平成26年度より伊良部大橋開通し観光客が増加する事が予想されるため、伊良部島も含めた美化強化事業として取り組む事から伊良部地区の7箇所を追加した。 また、7月にサニツ浜カーニバルが開催されるなどイベントとして利用される事からサニツ浜公園追加した。	草木の育生時期により美化作業の回数を判断しているが、伊良部大橋開通、また観光シーズンの観光客の公園利用が増加し、市民から美化作業の依頼が多くなり、その対応に苦慮している現状である。 そのため、公園の利用に支障のないよう美化作業回数の見直しを図る必要がある。

今後の取り組み方針

観光客数も年々増加している状況である。平成27年1月に伊良部大橋が開通したことにより、観光客数の増加が更に見込まれることから、平成27年度も引き続き業務を実施し、美しい島づくりを推進する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
17,669	17,669	14,135	3,534	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○福祉団体とは地方自治法施行令第１６７条の２第１項第３号の規定により随意契約。その他の事業者は、入札により選定しており妥当であったと考える。 ○不用額については、３％以内であり適正な規模と考える。 ○費用・使途については事業目的達成の観点から必要なものか等について検討し、金額の確定時において支出等に関する書類により確認し、適正であったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宮古島市

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	３－④	花と緑のあふれる島づくり事業		沖縄２１世紀ビジョン基本計画該当箇所	第３章－１－(6)－イ 花と緑あふれる県土の形成
担当部課名	農林水産部　　みどり推進課	事業実施(予定)年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－１－(1)

事業内容

花と緑のあふれる島づくりを推進するため、花木、苗木等を安定的に供給できる施設を整備する。

実施方法

□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	24年度(繰越)	25年度	26年度	27年度
予算の状況	(a)当初予算額	1,000	－	4,000	3,500	
	(b)予算現額	1,000	－	4,000	3,500	
	(c)増減額(b-a)	0	－	0	0	
	(d)繰越額	－	1,000	－	－	
	A．計(b+d)	1,000	1,000	4,000	3,500	
B．執行済額		0	945	3,833	2,970	
うち交付金充当額		0	756	3,066	2,376	
次年度繰越額		1,000	－	－	－	
執行率（%）(B/A)		0.0%	94.5%	95.8%	84.9%	

予算の状況の説明：平成26年度においては、苗畑基盤強化に関する基本設計及び総合検討委託業務を実施した。不用額530千円については、入札残によるものである。

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 26年度	27年度	28年度	29年度
苗畑施設の基盤強化に係る実施設計(かんがい施設等)	目　標	(　実施設計　)	(　　)	(　　)	(　　)
	実　績	基本設計及び総合検討委託業務			
	目　標	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)
	実　績				

達成状況説明：平成24年度に調査委託業務、平成25年度に測量委託業務を行った。活動目標に掲げた実施設計は、基本設計の記載ミスである。平成26年度は、基本設計及び総合検討委託業務を実施した。

成果目標(指標)及び進捗状況

H26成果目標(指標)		基準値(23年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(33年度)
苗畑施設の基盤強化に係る実施設計(かんがい施設等)の完了	目　標	(　　)	(　実施設計完了　)	(　　)	(　　)	(　　)
	実　績		基本設計及び総合検討委託業務			
	目　標	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)
	実　績					

進捗状況説明：成果目標に掲げている実施設計は、基本設計の記載ミスである。平成２６年度は、基本設計及び総合検討委託業務を実施し完了した。次年度以降の整備に向け目標未達成の実施設計を行う。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	花と緑のあふれる島づくりを推進するため、市民に花木、苗木等（果樹木の苗木を含む）を安定的に供給し、苗畑基盤強化を図る。平成26年度事業により基本設計及び総合検討委託業務を実施した。総合検討の内容は、市町村合併に伴い、3箇所に分散した苗畑を一元化する事と、市民の要望等に鑑み苗畑の今後についてである。 基本設計実施に向けての調整に時間を要したため、実施時期が遅くなり全体事業計画に遅れが生じた。 平成27年度は、実施設計を行う予定であったが基本設計の完了が平成27年3月となり基本設計の内容を整理する期間が短いと判断し、検討期間とした。	委託契約の実施が遅かったことにより、完了時期が年度末となった。今後は、次年度以降の事業実施に向けて影響が出ないよう事業の早期着手に努める。 平成27年度においては、実施設計に向けて、平成26年度事業で実施した、基本設計及び総合検討委託業務の整理期間とする。

今後の取り組み方針

平成27年度は、基本設計の内容を整理検討し、平成28年度に実施設計を行い、苗畑基盤強化に向けた整備を実施していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,970	2,970	2,376	594	0

宮古島市 2,970千円 → 委託料 2,970千円 → 福原組設計事務所 2,970千円（苗畑基盤強化に関する基本設計及び総合検討委託業務）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は市の業者選定委員会において選定した7社による指名競争入札で落札した事業者であり、妥当であったと考えている。 ○不用額が15％となった事については、指名競争入札による落札の結果である。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宮古島市

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3-⑥	花いっぱい推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-(ウ)
					観光客の受入体制の整備
担当部課名	観光商工局　観光課	事業実施(予定)年度	平成26～28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)

事業内容	観光地としての魅力向上を図るとともに、観光客が快適に過ごせるよう中心市街地及び観光地等に花木、プランター等を設置し花いっぱいの空間を形成する。
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
予算の状況	(a)当初予算額	10,000				
	(b)予算現額	9,400				
	(c)増減額(b-a)	▲ 600				
	(d)繰越額	－				
	A. 計(b+d)	9,400				
B. 執行済額		6,631				
うち交付金充当額		5,304				
次年度繰越額		－				
執行率（%）(B/A)		70.5%				
予算の状況の説明		６００千円の予算減については他の事業への流用で、不用額の２，７６９千円については、設置する花木の鉢をプランターに変更したことに伴い不用額が生じた。				

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 26年度	27年度	28年度	29年度
中心市街地及び観光地等での花木･プランター等設置【市内3通り(西里通り･下里通り･市場通り)】【観光地等　7ヶ所】	目　標	市内3通り観光地7カ所のプランターの設置	（　）	（　）	（　）
	実　績	市内3通り観光地7カ所のプランターの設置			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明	当初予定していた市内3通り(西里通り、下里通り、市場通り)及び観光地7カ所(通り池、ふなうさぎバナタ、サバオキ公園、白鳥岬公園、渡口の浜、牧山公園、伊良部大橋前)にプランターを設置し、景観の美化を行った。設置場所の選定については、市内のメイン通りと、伊良部大橋開通後の観光客の増加を見込み伊良部島の観光地を選定した。

成果目標(指標)及び進捗状況

H26成果目標(指標)		基準値（年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（年度）
中心市街地及び観光地等での花木･プランター等の設置による観光地としてのイメージ向上	目　標	（　）	（プランターの設置によるイメージ向上）	（　）	（　）	（　）
	実　績		プランターの設置によるイメージ向上			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明	市内3通り及び観光地7カ所に花のプランターを設置した。プランターを設置することにより花いっぱいの空間を形成することが出来たと同時にこれまで華やかさに欠けていた通りや観光地に華やかさがもたらされ観光地としてのイメージ向上に繋がった。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	プランター設置後の管理について、通り会や施設の管理者と十分な協議が出来なかった箇所が一部あり、設置後の散水管理に支障が生じた。また花の種類が少なかったので一部華やかさに欠ける設置箇所があった。	設置後の管理については、事業実施前に通り会及び施設の管理者と十分協議を行いプランターの管理について、協力体制を築いていく。また季節毎の花の選定を行い、種類を増やすとともに1年を通じてプランターの設置が出来るようにする。

今後の取り組み方針

年間通じて四季折々の花のプランターを設置し、花いっぱいの島づくり行う為に、各施設の管理者と調整を図っていく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
6,631	6,631	5,304	1,327	0

宮古島市
6，631千円
→
委託費
6,631千円
→
社会福祉法人
みやこ福祉会
6,631千円
（種苗育成・プランター設置委託）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者については、地方自治法施行令第167条2第1項第3号の規定基づき業者を決定しており妥当であったと考えている。 ○事業の計画変更に伴い29．5％の不用額が生じたので適正な予算規模とは言い難い。 ○費目、使途については、事業目的達成の観点から仕様書のとおり実施されているか等、完了検査及び支出等に関する書類により確認し、適正であった。
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宮古島市

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	４－①	観光プロモーション事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(2)－イ 市場特性に対応した誘客活動の展開
担当部課名	観光商工局　観光課	事業実施(予定)年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)

事業内容

観光情報発信力を強化するため、観光に特化したWEBサイトのコンテンツ等を整備するとともに、観光宣伝ツールを作成し、それらを活用した効果的な観光プロモーションを展開する。
また、本市の認知度を高めるため、県外における広告宣伝活動を実施するとともに、集客力の高いイベント等に参加し、本市の観光ＰＲを実施しながら、観光閑散期対策として、閑散期におけるコンテンツの創出に取り組む。

実施方法

■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	25,721	48,085	43,000		
	(b)予算現額	25,473	48,085	83,000		
	(c)増減額(b-a)	▲ 248	0	40,000		
	(d)繰越額	－	－	－		
	A. 計(b+d)	25,473	48,085	83,000		
B. 執行済額		25,473	47,198	78,942		
うち交付金充当額		20,378	37,757	63,152		
次年度繰越額		－	－	－		
執行率（%）(B/A)		100.0%	98.2%	95.1%		

予算の状況の説明：当初計画していた事業内容は概ね実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考える。
平成25年度は、別々の事業名で事業を実施しており、その執行額を合算したものである。
H25:4-①誘客プロモーション事業、4-⑨観光プロモーション事業

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 26年度	27年度	28年度	29年度
観光WEBサイトコンテンツ等の整備	目　標	(観光WEBサイトコンテンツ等の整備)	( )	( )	( )
	実　績	観光WEBサイトコンテンツ等の整備			
観光宣伝ツール(ポスター・パンフレット等)の作成	目　標	(観光宣伝ツールの作成)	( )	( )	( )
	実　績	実績なし			
県外で開催されるイベントへの参加	目　標	(県外で開催されるイベントへの参加)	( )	( )	( )
	実　績	県外で開催されるイベントへの参加			
観光閑散期対策としての観光メニューの開発	目　標	(観光閑散期対策としての観光メニューの開発)	( )	( )	( )
	実　績	観光閑散期対策としての観光メニューの開発			

達成状況説明

【観光WEBサイトコンテンツ等の整備】
平成25年度に制作した観光WEBサイト(宮古島style)のコンテンツ等を充実させ、アクセス数の増加を図るとともに、閑散期対策として取り組んだ「ゆくるプロジェクト」と連動し、取組内容をサイト内特設ページで紹介した。

【観光宣伝ツール】
当初、新たな観光宣伝ツールの作成を予定していたが、宮古島観光協会が別予算で宣伝ツールを作成したことから、取組内容の重複をさけるため、今回宣伝ツールの作成には取り組まなかった。

【イベント等への参加】
今回初めて、国内最大級の大型イベントである「お台場新大陸2015」に出展し、大々的に観光ＰＲを実施した。また、国内最大級の旅博覧会「ツーリズムEXPOジャパン2015」にも参加し、本市の観光を広くＰＲした。また、姉妹都市や沖縄観光コンベンションビューローと連携し、ご当地祭りや観光ＰＲイベントにも参加し、来場者に本市の物産や観光をＰＲした。

【閑散期対策】
観光客数が減少する冬期の誘客を目的として、「ゆっくりと　くらすように　旅する」をコンセプトに「ゆくるプロジェクト」を展開した。プロジェクトでは、内地に比べ冬場でも比較的暖かい宮古島で、ゆっくりとくらすように旅してもらうため、飲食店などの各事業者の協力を募り、宮古島でしか食べれない料理の提供や冬場だからこそ楽しめる体験メニューを紹介し、旅行者に体験してもらった。また、伊良部大橋の開通を機に伊良部島の観光をＰＲしながら、新たな観光コンテンツとして、「さとうきび畑迷路」や家族や友達とゆっくりとくつろげるスペースとして「ピクニックエリア」を設定し、多くの方に楽しんでもらった。アンケートも実施したが、ほとんどの方から「楽しめた」という意見を頂いており、初年度の取組としては、大きな成果が得られたと考えている。

成果目標（指標）及び進捗状況	H26成果目標（指標）		基準値（23年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（31年度）
	観光WEBサイトを活用した情報発信	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（情報発信）	（　　）
		実　績				情報発信	
	観光宣伝ツールを活用したプロモーションの展開	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（観光宣伝ツールを活用したプロモーションの展開）	（　　）
		実　績				実績なし	
	集客力のあるイベントを活用した観光ＰＲの実施	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（参加件数：3件）	（　　）
		実　績				参加件数：7件	
	観光メニューの開発件数：1件	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（1件）	（　　）
		実　績				1件	
	【参考指標】 宮古島市入域観光客数	目　標	（332,473人）	（400,000人）	（400,000人）	（420,000人）	（500,000人）
		実　績		413,654人	400,391人	430,550人	

進捗状況説明

【情報発信】
WEBサイト（宮古島style）のコンテンツを更新し、宮古島市での過ごし方、楽しみ方の紹介内容を充実させることで、アクセス数の増加と宮古島への来訪意欲を促した。
H26年度（4/1～3/31）：サイト来訪者数：約65000人　ページ閲覧件数：約220000件
H27年度（4/1～6/10）：サイト来訪者数：約20000人　ページ閲覧件数：約50000件
※平成27年度はこれからのシーズンがピークとなるため、H26年度を上回る見込み。また、検索キーワードも増加しているため、H26年度の2～3倍を見込んでいる。

【観光宣伝ツール】
当初、新たな観光宣伝ツールの作成を予定していたが、宮古島観光協会が別予算で宣伝ツール作成したことから、取組内容の重複をさけるため、今回宣伝ツールの作成には取り組まなかった。

【イベント等への参加】
1）ツーリズムEXPOジャパン2015　2）お台場新大陸2015　3）沖縄リゾートEXPOinTOKYO沖縄観光＆MICEセミナー
4）宮古島観光感謝祭（東京）　5）神奈川県藤沢市（交流都市）ご当地祭り　6）静岡県藤枝市(交流都市）ご当地祭り
7）岡山県津山市（姉妹交流都市）ご当地祭り

【閑散期対策・観光メニューの開発】
新たなコンテンツとして、「サトウキビ畑迷路」や「ピクニックエリア」を創出した他、飲食店をはじめとする島内事業者（94事業者）の協力を得て、観光客に対して宮古島ならではの農業体験やものづくり体験及びグルメ等を提供し,冬の宮古島観光の魅力を向上させる取組を実施した。また、「サトウキビ畑迷路」や「ピクニックエリア」などのコンテンツの満足度を把握するため、観光客に対してアンケート調査を実施したところ、「とても良かった」、「良かった」との回答がほぼ100%となる結果となり、次年度へ向けての手応えと商品造成に向けた可能性を感じた。

【参考指標（入域観光客数）】
平成26年度の入域観光客数は前年度比で約7.5%（30,159人）増加しており、3年連続で400，000人を突破し、過去最高となる430,550人を達成したところである。このことは、沖縄振興一括交付金を活用し、事業を実施した成果が顕著に現れているものと考えている。今後も島外における観光ＰＲイベントへの参加や閑散期対策を実施するとともに、WEBサイトを効果的に活用した観光情報の発信や観光ＰＲを行い、入域観光客数50万人達成に向け取り組んでいく。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	宣伝ツールの作成については、宮古島観光協会も毎年度ツール作成に取り組んでいるため、同様のツールを作成しないよう事前調整を図る必要があったが、調整不足で同様のツール作成を計画していたため、市としては、ツール作成を取りやめた。原因は調整不足であり、年度当初にお互いの事業計画をしっかりと確認し、重複する取り組みがないように調整を図る必要がある。 WEBサイトを活用した情報発信は、今後より一層国内外からの誘客促進を図るために、引き続き実施していきたい。 島外における観光PRイベント等への参加については、今回初めて、EXPOジャパンやお台場新大陸など、国内最大規模の大型イベントに参加し、PRを実施した。PR自体は、成功したと考えるが、ポスターの作成方法（見せ方）等に未熟な部分があったため、他のポスター等を参考にして、よりよいツール作成に取り組んでいきたい。また、今後とも、沖縄県の観光部局や沖縄観光コンベンションビューローとの連携し、集客力のあるイベントに積極的に参加していきたい。 閑散期対策については、初めての取り組みだったため、事業立案に時間を要し、事業を周知する時間的余裕がなく、手間取ったが、旅行者の反応がよく、冬期の集客に向けては手応えがつかめたので、引き続き実施していきたい。	宣伝ツールの作成については、宮古島市と宮古島観光協会等とにおいて、それぞれが活用できる予算や動員できる人員等について事前に協議し、PR業務やツール作成業務等の実施に関して、取組が重複しないよう、取り組んでいく必要がある。 WEBサイトを活用した情報発信については、継続して取り組んでいきたい。 イベント等への参加については、今後経験を重ね、さらに効果的なPRを実施していく。また、閑散期対策についても早めに事業立案等に取り組み、効率よく事業を実施し、効果を検証していく必要がある。

今後の取り組み方針

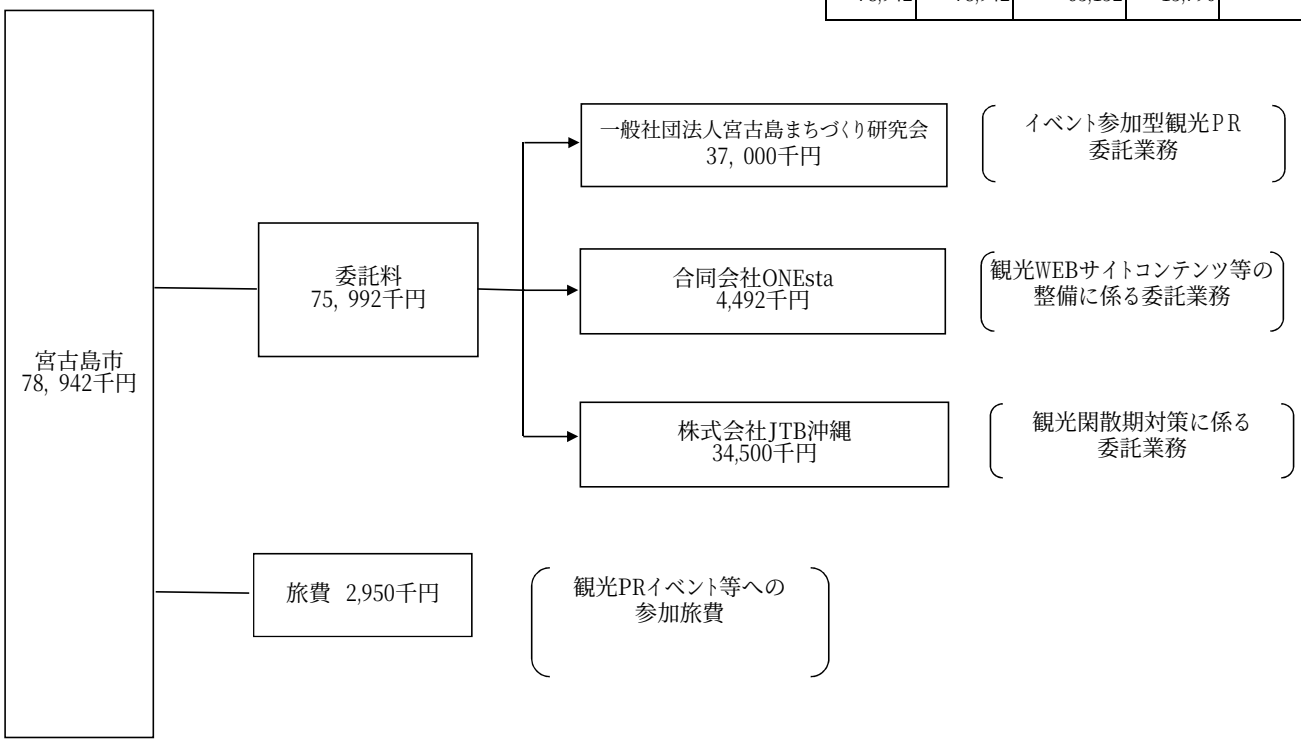
しっかりとした事業計画を立て、早めに事業の実施に取り組むことで、事業効果を最大限に引き出していきたい。また、入域観光客数を増加させるためには、プロモーション事業を継続的に実施することが必要であると考えるため、引き続き各プロモーション事業を展開していく。

【情報発信】
WEBサイト（宮古島style）の内容を随時更新し、魅力ある情報発信を行うとともに、ユーザーの興味喚起を促し、アクセス数を増加させていく。
【イベント等への参加】
直接的なPR活動として、国内外で開催される旅博などのイベントには積極的に参加していきたい。
【閑散期対策】
今回「ゆっくりと　くらすように　旅する」をコンセプトに「ゆくるプロジェクト」として閑散期における各種取組を実施したところ、多くの反響があり、その可能性を確立できたので、このプロジェクトが全国的に認知され、集客につながるまで継続的に実施していきたい。

資金の流れ

（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
78,942	78,942	63,152	15,790	



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○事業の実施にあたっては、公募型プロポーザル方式により、委託事業者を選定したほか、企業組織、実績、知識等の面も信頼性がある事業者を選定して契約しており、支出先としては、妥当であると考える。 ○予算規模については、PRに重点をおいて事業を実施しており、適正な規模であったと考える。また、現実的に観光客数も増えているため、将来性を考慮しても適正であると考えている。 ○費目・使途については、事業目的達成の観点から事業完了後に検査を行った結果、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宮古島市

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	４－②	宮古島フラダンス全国大会支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(2)-イ 文化コンテンツの創出
担当部課名	観光商工局　商工物産交流課	事業実施(予定)年度	平成25～29年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)

事業内容

観光客の誘致拡大や地域経済の活性化を図るため、フラダンス全国大会の開催を支援する。

実施方法

□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a)当初予算額	5,000	5,000			
	(b)予算現額	5,000	5,000			
	(c)増減額(b-a)	0	0			
	(d)繰越額	－	－			
	A. 計(b+d)	5,000	5,000			
B. 執行済額		5,000	5,000			
うち交付金充当額		4,000	4,000			
次年度繰越額		－	－			
執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%			

予算の状況の説明：不用額はなく当初予定していた事業内容はすべて実施されており、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考える。

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 26年度	27年度	28年度	29年度
宮古島フラダンス全国大会の支援	目　標	（　開催支援　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	開催支援			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：広報活動として、5月10日に告知及びフラダンスイベントを実施、4月28日から5月18日にかけてパネル展示及び大会ビデオ上映会を実施した。
5月16日から5月18日にかけてマティダ市民劇場等を舞台に宮古島フラダンス全国大会(「カギマナフラin宮古島２０１４」)を開催した。

成果目標(指標)及び進捗状況

H26成果目標(指標)		基準値（年度）	25年度	26年度	27年度	目標値（年度）
来場者数	目　標	（　）	（1,200人）	（4,100人(2日間)）	（　）	（　）
	実　績		1,500人	2,890人		
【参考指標】宮古島市入域観光客数	目　標	（332,473人）	（400,000人）	（500,000人）	（　）	（　）
	実　績		400,391人	430,550人		

進捗状況説明：成果目標は未達成となっているが、成果目標にあげた4,100人は記載ミスで、本来の目標数は1,400人であったためである。実績としては、前回大会より約1,000人ほど参加者が増加しており、一定の誘客効果をあげたと考える。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	本大会は、フラダンスを通した人的交流や観光イベントの発展を目的に開催している。 第2回目だった今大会には県内外から多くの参加者が訪れているが、都道府県別で見ると8都府県の参加となっており、全国的な知名度はまだまだである。 次年度も継続して大会を開催するので、さらに多くの県から参加者を集めるためにも、全国各地でPR活動を行って行く必要がある。	全国各地のフラダンス教室や、フラダンスサークルのある大学等へも資料発送等のＰＲ活動を展開していき、知名度のアップを図る。

今後の取り組み方針

新規の参加者獲得のためのPR活動を展開していくと共に、参加者の満足度を高めていくため、さらに本大会やワークショップ等のオプション拡充もすすめ平成27年度以降も継続していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
10,651	5,000	4,000	1,000	5,651

宮古島市
5，000千円

補助金
5，000千円

カギマナフラ宮古島実行委員会
5，000千円

カギマナフラin宮古島
会場使用料
ステージ設営委託料
審査員旅費

実行委員会負担金
（交付対象外経費）
5，651千円

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○宮古島フラダンス全国大会支援事業補助金交付要綱に基づき、対象事業を主催する実行委員会を選定しており、妥当であると考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○事業終了後に行った会計監査では、特に不要な支出は無く、予算規模は適正であったと考える。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○実行委員会においても一定の費用を負担しており、適正であったと考える。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費用・使途については、完了検査にて確認、適正であった。

市町村名	宮古島市

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	４－③	エコアイランド宮古島マラソン大会補助金		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－2-(1)-イ 「スポーツアイランド沖縄」の形成
担当部課名	観光商工局商工物産交流課	事業実施(予定)年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)

事業内容	島外から多くの参加者が訪れる「エコアイランド宮古島マラソン大会」の開催を支援するため、補助金を交付する。
実施方法	□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	3,000	3,000	3,000		
	(b)予算現額	3,000	3,000	3,000		
	(c)増減額(b-a)	0	0	0		
	(d)繰越額	－	－	－		
	A. 計(b+d)	3,000	3,000	3,000		
B. 執行済額		3,000	3,000	3,000		
うち交付金充当額		2,400	2,400	2,400		
次年度繰越額		－	－	－		
執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%	100%		

予算の状況の説明	不用額も無く、当初計画していたとおり「エコアイランド宮古島マラソン大会」を実施し、予算を適正に執行した。

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
エコアイランド宮古島大会の開催支援	目　標	（　開催支援　）	（　開催支援　）	（　開催支援　）	（　　）
	実　績	開催支援	開催支援	開催支援	
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績				

達成状況説明	第5回エコアイランド宮古島マラソン大会を平成26年10月19日に実施した。 エコロジーとスポーツの融合によるスポーツイベントの一環として島外からの大会参加者のCO2排出量を算定し、相当量のオフセット(排出権)を充当することによるカーボンオフセットを実施、エコアイランドの森で上位入賞者による記念植樹、大会役員車両はすべて電気自動車、エコカーを導入するなど、大会を通して、エコアイランドとしての島を全国にPRした。

成果目標(指標)及び進捗状況

H26成果目標(指標)		基準値（年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（年度）
エコアイランド宮古島大会の参加者数	目　標	（H23）	（1000人）	（1000人）	（1300人）	（　　）
	実　績		941人	1261人	1453人	
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績					

進捗状況説明	島外からの参加者も、北海道から鹿児島まで1都、2府、39県、沖縄本島、八重山までくまなく参加し、今後も誘客効果があると考える。 目標を上回った要因として、美しい海が見えるコースの魅力に加え、早くからWEB等で情報発信し、新聞、TV、雑誌等の宣伝が功を奏している。 新たな魅力あるコースを設定することで、今後益々発展して行くことが期待される。

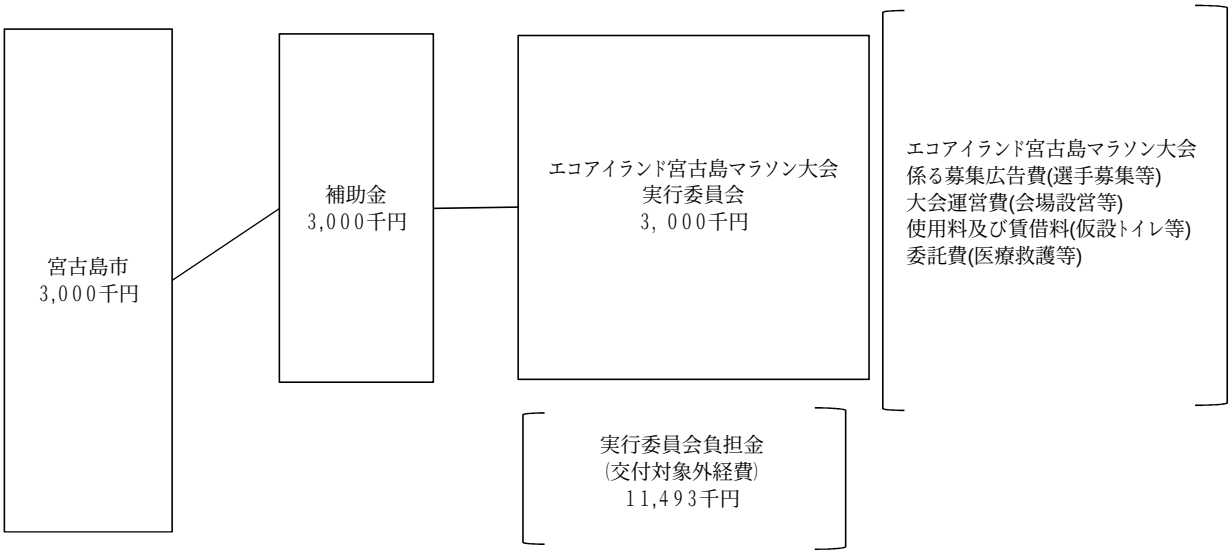
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	宮古島ならではの美しい海や砂浜を見ながら走れる景観、橋など魅力あるコース設定に留意して、参加者が安心して走り、楽しみ、自然を満喫できる、他では体感できないような大会運営に取り組んだ。 大会終了後、コース上にゴミが散乱しているとの苦情があり、大会終了後、コース点検を行い、クリーンアップに努めた。	エコアイランド宮古島を象徴する大会として、これまで以上に、参加者が、安心して走り、楽しみ、自然を満喫できるよう、走路員を強化し、更なる安全対策を講じ取り組んでいく。 又、ADステーション付近でのゴミの散乱を防ぐため、大会前と終了後にクリーンアップをおこない、ゴミの軽減を図る。 更に、ふれあいパーティーで使うコップ、皿や箸をリユースし、エコな取り組みをしていく。

今後の取り組み方針

今後は、第6回大会開催要項を早めに決定し、募集活動を6月1日から開始する。宮古島市制10周年記念の節目の大会として、2015年1月31日に開通した、無料で渡れる日本一長い橋、伊良部大橋（3,540m）を新たにコースに取り入れ、10kmの部を新設していく。宮古島ならではの美しい海や砂浜を見ながら走れる伊良部大橋など魅力あるコースをWEB、雑誌、新聞、TV等の媒体を活用し、早めに告知していく。コース変更に伴い、競技委員会、総務委員会を開催し、より安心安全な大会を目指して、万全を期して準備していく。
平成27年度は宮古島市の一般財源を活用しながら参加者増による参加料増収・協賛金の確保等、自主運営での開催継続に向けて努力していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
14,493	3,000	2,400	600	11,493



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○宮古島市スポーツアイランド事業補助金交付要綱に基づき、対象事業を主管する実行委員会への補助金交付であり、適正であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○事業終了後に行った会計監査では、特に不要な支出は無く、予算規模は適正であったと考える。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○エコアイランド宮古島マラソン実行委員会においても一定の費用を負担しており、適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費用・使途については、完了検査にて確認、適正であった。

市町村名	宮古島市

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	4－④	宮古島１００kmワイドーマラソン大会補助金		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第３章-２-（1）-イ 「スポーツアイランド沖縄」の形成
担当部課名	観光商工局商工物産交流課	事業実施(予定)年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-１-（1）

事業内容

島外から多くの参加者が訪れる「宮古島１００kmワイドーマラソン大会」の開催の支援をするため、補助金を交付する。

実施方法

□直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	1,609	1,450	1,450		
	(b)予算現額	1,609	1,450	1,450		
	(c)増減額(b-a)	0	0	0		
	(d)繰越額	－	－	－		
	A. 計(b+d)	1,609	1,450	1,450		
B. 執行済額		1,609	1,450	1,450		
うち交付金充当額		1,287	1,160	1,160		
次年度繰越額		－	－	－		
執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%	100.0%		

予算の状況の説明：不用額はなく当初予定していた事業内容はすべて実施されており、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考える。

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
宮古島１００kmワイドーマラソン大会の開催支援	目　標	（　開催支援　）	（　開催支援　）	（　開催支援　）	（　　）
	実　績	開催支援	開催支援	開催支援	
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績				

達成状況説明：平成26年1月11日開催の宮古島100kmﾜｲﾄﾞｰﾏﾗｿﾝは成功を収め、誘客効果も一定の成果があったと考える。大会に対する補助金の使途は、大会ﾒｲﾝ会場設営費等であり、当初計画していた通り執行されている。

成果目標(指標)及び進捗状況

H26成果目標(指標)		基準値（年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（年度）
宮古島１００kmワイドーマラソン大会の参加者数	目　標	（H23）	（1200人）	（1300人）	（1350人）	（H30）
	実　績		1146人	1317人	1626人	
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績					

進捗状況説明：目標に掲げたイベント参加者数を達成し、本大会は成功に終了したと考えられる。参加者数の約７０%をしめる1,１３７人が島外からの参加者であり一定の誘客効果があったと考える。
近年のマラソンブームにより今後も参加者数の増加が見込まれることから、島外大会でのPR活動やWEBサイト、マラソン専門誌を活用した大会情報の発信を行い、参加者数の増加に向けて取り組んでいく。

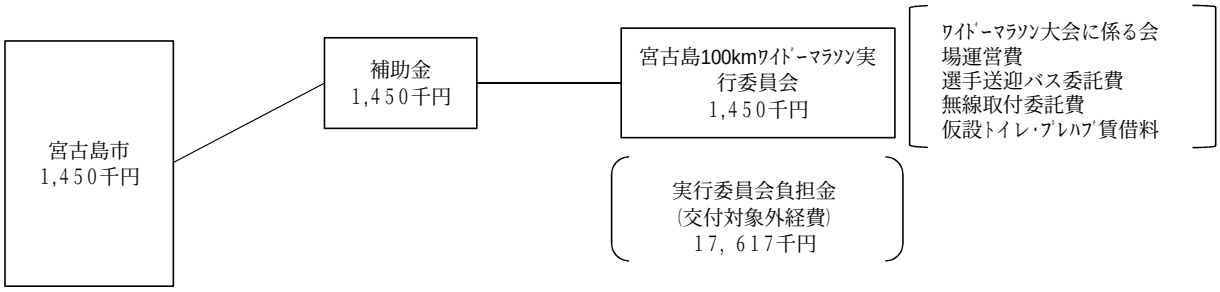
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	今回より新たに競技会場と表彰式会場を一体とし、効率的な大会運営を行うことができた。会場変更に伴い、メイン会場である下地公園内の駐車場を確保していたが台数に限りがあるため、送迎バスの台数を増やしバス利用を促していたが、島内の参加者は自家用車での来場が多いため駐車場が不足した。 伊良部大橋開通により、参加者からコースに取り入れてほしいとの意見を受けており、今後は伊良部大橋を含めた新たなコース設定を検討する必要がある。	送迎バスについては、今後も参加者数の増加が予想されるため、島内･島外両方の参加者が利用しやすい運行行程･台数を検討し、バス会社との調整を行う必要がある。 申込書や、大会2ヶ月前の全参加者への「ﾅﾝﾊﾞｰｶｰﾄﾞ通知はがき」郵送の際に、極力送迎バスを利用するよう記載し周知の徹底をはかる。 伊良部大橋を含めたコース設定･距離設定が可能かどうか検討する。

今後の取り組み方針

次回大会に向け伊良部大橋を目玉とした新たなコース･距離を設定し、日本最南端の長距離マラソンとして大会の知名度を高め、冬場の誘客数増加に向けた取組をしていくが、平成27年度は宮古島市の一般財源を活用しながら参加者増による参加料増収･協賛金の確保等、自主運営での開催継続に向けて努力していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
19,067	1,450	1,160	290	17,617



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○宮古島市スポーツアイランド事業補助金交付要綱に基づき、対象事業を主管する実行委員会への補助金交付であり、適正であったと考える。 ○事業終了後に行った会計監査では、特に不要な支出は無く、予算規模は適正であったと考える。 ○ﾜｲﾄﾞｰﾏﾗｿﾝ実行委員会においても記録集計業務等の大会運営費を負担しており、適正であったと考える。 ○費用･使途については、完了検査にて確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目･使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宮古島市

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	４－⑤	南部忠平杯グラウンドゴルフ宮古島大会補助金		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(1)-イ「スポーツアイランド沖縄」の形成
担当部課名	観光商工局　商工物産交流課	事業実施(予定)年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－１－(1)

事業内容

島外から多くの参加者訪れる「南部忠平杯グラウンドゴルフ宮古島大会」の開催を支援するため、補助金を交付する。

実施方法

□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	1,000	1,200	1,200		
	(b)予算現額	1,000	1,200	1,200		
	(c)増減額(b-a)	0	0	0		
	(d)繰越額	－	－	－		
	A. 計(b+d)	1,000	1,200	1,200		
B. 執行済額		1,000	1,200	1,200		
うち交付金充当額		800	960	960		
次年度繰越額		－	－	－		
執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%	100.0%		

予算の状況の説明：不用額もなく当初予定していた事業内容はすべて実施されており、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考える。

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
南部忠平杯グラウンドゴルフ宮古島大会の開催支援	目　標	（開催支援）	（開催支援）	（開催支援）	（　）
	実　績	開催支援	開催支援	開催支援	
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：平成26年11月8日･9日に大会が開催された。
補助金の交付だけでなく、競技補助のため大会ボランティアを派遣するなど、財政面だけでなく人的面での大会開催支援も行った。

成果目標(指標)及び進捗状況

H26成果目標(指標)		基準値（年度）	24年度	25年度	26年度	
南部忠平杯グラウンドゴルフ宮古島大会の参加者数	目　標	（　）	（400人）	（400人）	（450人）	（　）
	実　績		384人	415人	367人	
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：参加者の多くが高齢者であることから、離島である本市への遠距離移動が年々困難になっている。そのため、島外からの参加者が前回の213人から156人に減少しており、目標に掲げたイベント参加者数を達成することができなかった。
※地元参加者は前年度並み

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	本事業は、生涯スポーツとして誰もが楽しみ参加できるスポーツイベントであり、県内外から多くのグラウンドゴルフ愛好家を誘客することを目的として実施している。 大会開催の課題として、参加者の多くが高齢者でることから、離島である本市への遠距離移動が年々困難になっていることがあげられる。そのため、年を追うごとに島外からのリピーターが減少しており、結果として大会参加者も減少傾向にあった。そのため、若い世代の参加者を獲得するため島外の様々な大会に出向きPR活動を行ってきたが、大会参加者の増加につなげることができなかった。	新たな参加者を獲得するべく、島外の様々な大会に出向きPR活動を行ってきたが、期待したほど状況に好転がみられず、事業に継続について検討を行った。

今後の取り組み方針

本事業は、島外から多くの参加者を呼び込み、スポーツ交流と誘客の両面で役割を果たしてきたが、事業を実施した期間で目標を達成したことが少なく、参加人数を増やすことが困難であると判断したため、事業を廃止する。
今後は、新たなイベントの形を模索していき、これまで本事業で蓄積してきたノウハウを活かしてさらなる誘客に取り組んでいく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,582	1,200	960	240	2,382

宮古島市
1,200千円

補助金
1,200千円

南部忠平杯
グラウンドゴルフ宮古島大会
実行委員会
1,200千円

［南部忠平杯グラウンドゴルフ宮古島大会
スコア集計委託料
特別番組製作委託料
会場設営費］

［実行委員会負担分
(交付対象外経費)
2,382千円］

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○宮古島市スポーツアイランド事業補助金交付要綱に基づき、対象事業を主管する実行委員会へ補助金交付を行ったので、妥当であると考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○参加者数は目標に届かなかったが、活動目標は概ね達成しており、予算規模は適正であったと考える。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○実行委員会においても予算の約3分の2を負担しており、適正であったと考える。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費用、使徒については、完了検査にて確認し、適正であった。

市町村名	宮古島市

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	4-⑥	平良港クルーズ等観光･人流計画調査事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(1)－(イ) 人流･物流を支える港湾の整備
担当部課名	建設部　港湾課	事業実施(予定)年度	平成26年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)

事業内容

平良港では平良港港湾計画書（平成20年11月改訂）において、漲水地区に貨物船と旅客船が供用可能な公共埠頭が計画されている。
クルーズ客船を誘致することが宮古島の経済及び国際観光の振興に大きく寄与するものと期待されており、本調査は、こうした状況にある平良港に大型クルーズ客船を誘致するための調査検討を目的として実施する。

実施方法　□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
予算の状況	(a)当初予算額	8,910				
	(b)予算現額	8,910				
	(c)増減額(b-a)	0				
	(d)繰越額	―				
	A. 計(b+d)	8,910				
B. 執行済額		7,992				
うち交付金充当額		6,393				
次年度繰越額		―				
執行率（%）(B/A)		89.7%				

予算の状況の説明：不用額918千円については委託の入札残によるものである。

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 26年度	27年度	28年度	29年度
平良港に大型クルーズ客船を誘致するための計画調査委託業務の実施	目　標	（調査委託業務実施）	（　）	（　）	（　）
	実　績	調査委託業務実施			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：平良港へのクルーズ船寄港を促進する観点から課題と対応策を検討し、今後の取り組み方針案が策定できた。

成果目標(指標)及び進捗状況

H26成果目標(指標)		基準値（年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（年度）
クルーズ寄港促進に向けて課題の把握と今後の対応方針のとりまとめ	目　標	（　）	（課題把握と対応方針の取りまとめ）	（　）	（　）	（　）
	実　績		課題把握と対応方針の取りまとめ			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：昨今の東アジアを中心としたクルーズ船の寄港需要の増大を背景に沖縄県内への寄港が増加している状況を踏まえ、平良港へのクルーズ船の寄港を促進する観点から課題と対応策を検討し宮古島市及びクルーズ関係者が取り組むべき諸施策を検討した。
ハード面ではふ頭関連施設、ターミナル施設等の整備、ソフト面では交通手段(バス･タクシー)等の観光インフラについて課題があがった。

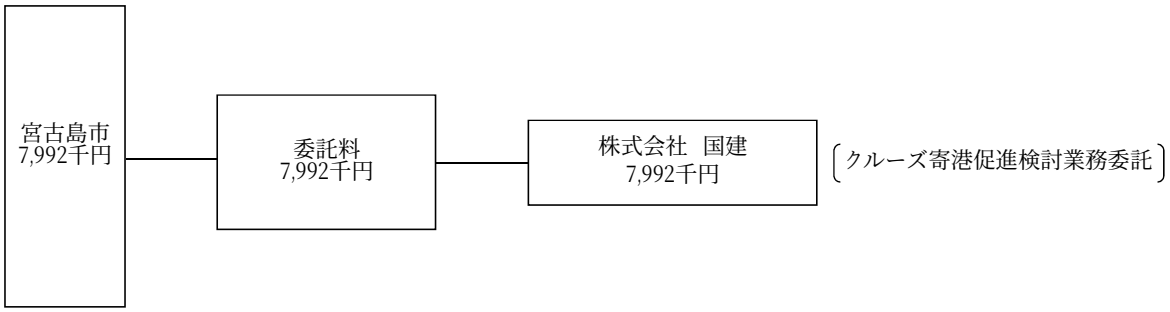
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	クルーズ観光関係者･商工会議所･運輸業界等よりヒアリングを実施し、平良港にある問題点等を抽出することにより寄港数を高めるために取り組むべき課題を検討した。 事業計画のとおり入札の不調不落もなく、事業期間内にクルーズ船誘致に向けての計画調査を行うことができた。	各関係者の協力の下、スムーズな調査業務を行うことができたため、特に改善点は無いと考える。

今後の取り組み方針

ハード面に関しては、張り水地区の再編事業もあり、7万トン型まで受け入れ可能な貨物船･客船兼用のバースを整備計画中であり、早期に共用開始されれば課題は改善可能である。
クルーズ客船誘致のために調査結果を踏まえながら、平成27年度は下崎ふ頭の泊地(北側)浚渫･ターミナル施設の整備･タグボート(常駐)や給水等のポートサービスの充実に向け早期整備を行う。
また、ソフト面の整備については、宮古島市の関係各課、観光協会等関係団体と連携を図りながら、港湾整備後の観光インフラを充実させるように取り組む。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
7,992	7,992	6,393	1,599	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は一般競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 ○当初予算の9割の支出であり適正な規模であった。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目･使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宮古島市

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	５－①	エコアイランド宮古島周遊エコツアー整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(3)-ア 地球温暖化防止対策の推進
担当部課名	企画政策部エコアイランド推進課	事業実施(予定)年度	平成24～26年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)

事業内容

本市のエコ関連施設において、観光客や市民等が設備を見学できるＰＲ館を整備することにより観光振興を図る。平成26年度においては、平成２５年度事業で整備したＰＲ館に係る展示物の充実及び各見学サイトにおける説明パネルや説明パンフレットの整備、普及啓発グッズの作成等を行う。

実施方法

■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	24年度(繰越)	25年度	25年度(繰越)	26年度
予算の状況	(a)当初予算額	29,400	―	135,278	―	6,000
	(b)予算現額	25,400	―	135,278	―	10,400
	(c)増減額(b-a)	▲ 4,000	―	0	―	4,400
	(d)繰越額	―	21,400	―	72,983	―
	A. 計(b+d)	25,400	21,400	135,278	72,983	10,400
	B. 執行済額	3,634	7,209	62,295	64,602	10,393
	うち交付金充当額	2,907	5,767	49,836	51,682	8,314
	次年度繰越額	21,400	―	72,983	―	―
	執行率（%）(B/A)	14.3%	33.7%	46.0%	88.5%	99.9%

予算の状況の説明：・電力需給体験シミュレータ制作委託及び研修等用映像制作委託のため、10月の事業計画変更により4,400千円を増額した。

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 26年度	27年度	28年度	29年度
ＰＲ館に係る展示物の整備	目　標	（　展示物の整備　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	展示物の整備			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：エコアイランド宮古島の取り組みを映像と音声で解りやすく 紹介するための説明タブレット3台・説明パネル25枚・館内の配置を表したリーフレット・イメージキャラクター「みーや」や雷神「ミエルカ」の等身大パネルの施設内展示物、概要を紹介する団体用の研修等用映像、宮古島の電力需給バランスを体験できる体験シミュレータを整備した。

成果目標(指標)及び進捗状況

H26成果目標(指標)		基準値（　年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（　年度）
来館者数:1000名	目　標	（　）	（　1000名　）	（　）	（　）	（　）
	実　績		1,009名			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：PR館の来場者数1,000名を目標とし、平成26年10月8日の会館から平成27年3月31日までの実績で1,009名と目標を達成できたが、団体視察者数が多く一般来館数を上回った。今後は多くの方々に、エコアイランド宮古島としての取り組み事例等の紹介・学習・観光の場として来館して頂くよう一般市民や観光客、学校等の教育機関への広報活動を強化していく。

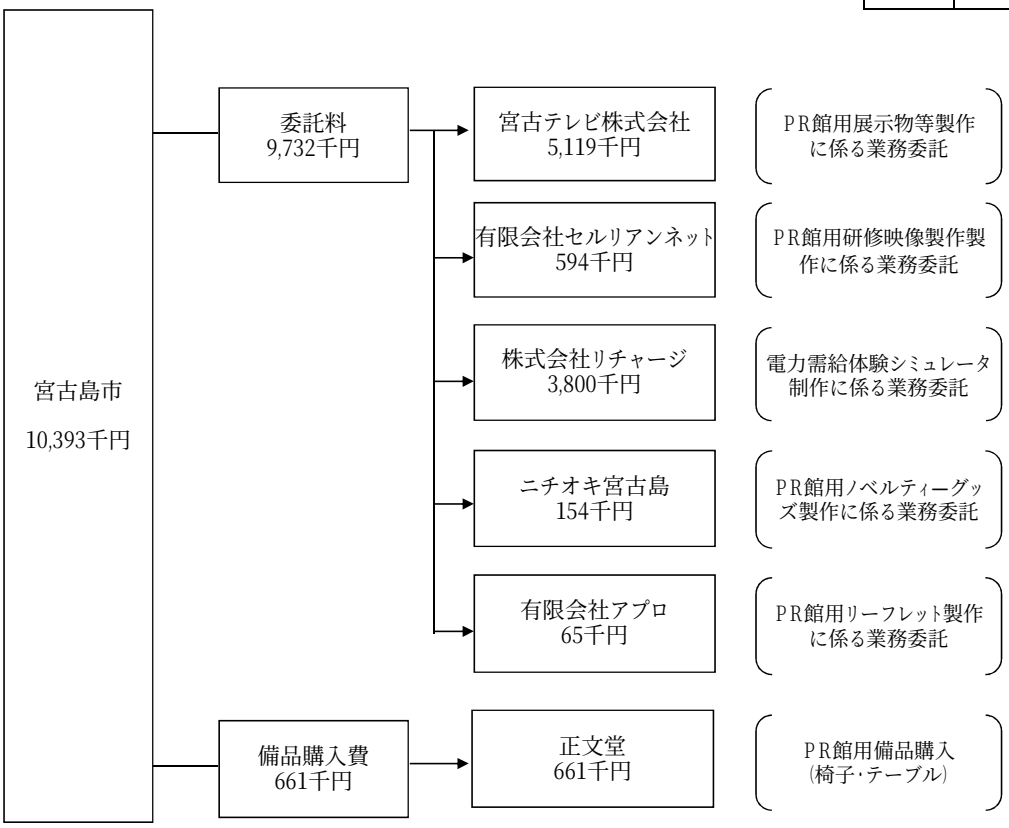
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	平成26年度においてのPR館の展示内容の充実よる来場者増を図るため、追加予算で研修等用映像制作と体験シミュレータ制作を行ったが、海外からの視察団体も来館しており、今後は外国語に対応した表示・展示物の充実を図る必要があったと考える。	ＰＲ館の開館に合わせ、各展示物の整備を行い、一般市民や観光客、学校等の教育機関への広報活動を行うことで、エコアイランド宮古島としての取り組み事例等の紹介・学習・観光の場としての活用を推進してきたが、今後は外国語に対応した表示・展示物の充実を図るとともに、広報活動の幅を広げ、海外からの観光・視察等の来館者も取り込んで、更なる来館者増を図っていきたい。

今後の取り組み方針

今後も引き続き多方面における広報活動と展示物の充実を図るともに、観光関連団体等と連携することでエコ関連イベント等の取り組みをPR館で開催することで、ＰＲ館のさらなる活用と来館者増を推進していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
10,393	10,393	8,314	2,079	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は、一般競争入札・プロポーザルによる選定と2社以上からの見積徴収よる少額随契により決定しており、地方自治法及び宮古島市契約規則に則り、妥当であったと考えている。 ○予算規模については、参考見積を徴収し採用単価を決定しており、実施した事業について適正だった。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宮古島市

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	5-②	バイオエタノール高効率製造･流通事業		沖縄２１世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(3)-イ クリーンエネルギーの推進
担当部課名	企画政策部エコアイランド推進課	事業実施(予定)年度	平成24～28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)

事業内容

当市の基幹作物であるサトウキビのカスケード利用を通じた循環型社会の構築及び沖縄産バイオエタノールの事業化を目指して以下の事業を実施する。
･バイオエタノールの高効率製造事業
･バイオ燃料の流通安定化検証
･付加価値の高いバイオエタノールの用途開発等調査

実施方法

□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	24年度(繰越)	25年度	25年度(繰越)	26年度
予算の状況	(a)当初予算額	44,377	―	60,000	―	69,000
	(b)予算現額	44,377	―	86,000	―	68,272
	(c)増減額(b-a)	0	―	26,000	―	▲ 728
	(d)繰越額	―	17,500	-	86,000	-
	A. 計(b+d)	44,377	17,500	86,000	86,000	68,272
B. 執行済額		16,656	16,662	0	82,492	65,465
うち交付金充当額		13,325	13,330	0	65,993	52,372
次年度繰越額		17,500	0	86,000	―	0
執行率（%）(B/A)		37.5%	95.2%	0.0%	95.9%	95.9%

予算の状況の説明

･Ｅ３燃料の流通量が少ないため、製造費、品質検査等にかかる費用2,807千円の不用額があり、事業費は、バイエタ製造･流通事業49,459千円、Ｅ３流通事業16,006千円の総額65,465千円となった。

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 26年度	27年度	29年度	30年度
1) 事業性評価と見直し	目　標	（事業性評価と見直し）	（　）	（　）	（　）
	実　績	事業性評価と見直し			
2) バイオ燃料の流通安定化検証	目　標	（バイオ燃料流通検証）	（　）	（　）	（　）
	実　績	バイオ燃料流通検証			

達成状況説明

1)バイオ燃料(Ｅ３燃料)の一般流通を開始したが、流通量が伸び悩んでいるため、バイオエタノールの利活用をＥ３燃料だけではなく、他の用途への利用検討、残渣液の液肥としての販売も含めた事業評価を次年度以降も継続して行うこととなった。
2)Ｅ３燃料の一般流通を開始し、流通に関しての検証を開始したが、流通量が伸び悩んでいるため事業化に向けた検証が十分に行えていない。次年度以降も流通量を増やす対策等を行い検証を行うこととなった。

成果目標(指標)及び進捗状況

H26成果目標(指標)		基準値(　年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(　年度)
バイオエタノールの製造(50kℓ/年)	目　標	(　)	(バイオエタノール製造)	(バイオエタノール製造)	(ﾊﾞｲｵｴﾀﾉｰﾙ50KL製造)	(　)
	実　績		6,355リットル製造	36,858リットル製造	ﾊﾞｲｵｴﾀﾉｰﾙ35.3ＫＬ製造	

進捗状況説明

バイオエタノールを35,300リットルの製造と副産物の施肥効果試験を行った。Ｅ３燃料の販売量が少なかったため、バイオエタノールの製造量が目標を下回った。
Ｅ３燃料の一般供給187,559リットルの販売を行った。

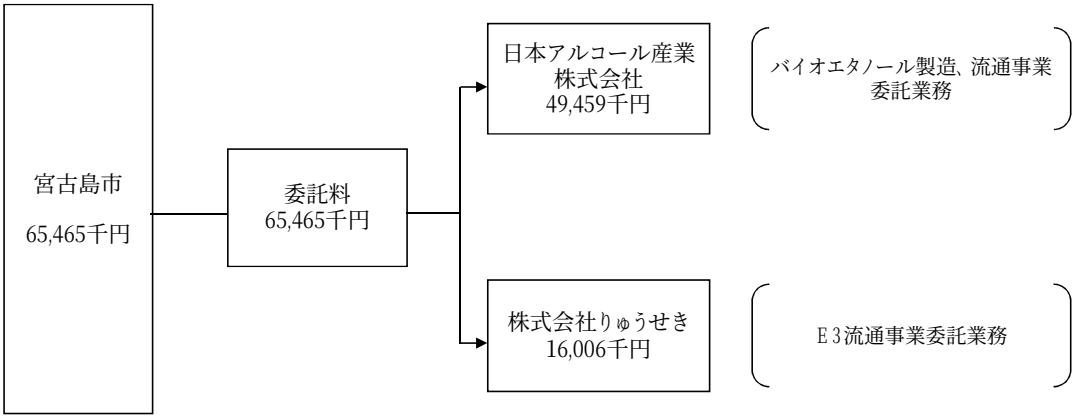
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・H25年度：バイオエタノール製造・流通の事業化を目的として、製造技術の確立、製造残渣液の肥料としての有効性などが確認できた。 ・H26年度：バイオエタノール製造・流通の事業化を目的として、事業性の評価、見直し及びバイオ燃料（E3燃料）の流通安定化検証を行った。 ・ガソリンと比べ割高感や使用への不安があるため、E3燃料に対する一般利用が伸び悩んでいる。 ・バイオエタノールの製造コスト圧縮だけでは採算性の確保に課題がある。 ・E3の流通検証を行ったが流通量が見込みを下回ったため、採算性及び品質管理の検証が十分できなかった。	・E3の流通量拡大に向け、一般への普及啓発活動や利用促進の取組を行う必要がある。 ・大量生産による製造コスト圧縮だけでなく、事業化に向けては人件費などの固定費の圧縮や精製時の副産物の活用により複合的に収益性を向上させる必要がある。 ・E3の十分な流通量を確保し、流通の採算性及び品質管理の検証を行う必要がある。

今後の取り組み方針

・循環型社会の構築及びE3の流通促進に向け、広報などを活用した一般への普及啓発に努めると共に、プレミアム商品券を活用したE3の消費拡大に取り組む。
・引き続きバイオエタノールの製造コスト圧縮に取り組むとともに、製造残渣液の液肥としての活用に向けた効果の検証、流通販売経路の確保について検討する。
・流通促進と併せて事業化に向けた流通検証を行う。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
65,465	65,465	52,372	13,093	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は製造施設の指定管理者であり、また当事業はこの製造施設を活用して行われること、企業組織、実績、知識等からも同社へ委託することが適当であり、競争に適さないと考え随意契約とした。 ○予算内容としては、製造に係る経費がほとんどであり、適正な規模と考える。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宮古島市

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	６－①	ヤソ防除事業		沖縄２１世紀ビジョン基本計画該当箇所	第５章－３－(4)－ウ 圏域の特色を生かした産業の振興
担当部課名	農林水産部　農政課	事業実施(予定)年度	平成24～28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-１－(6)

事業内容

さとうきびをヤソの被害から守るため、地上防除及び航空防除を実施する。

実施方法

■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	22,300	33,691	33,808		
	(b)予算現額	22,292	33,691	33,808		
	(c)増減額(b-a)	▲ 8	0	0		
	(d)繰越額	－	－	－		
	A. 計(b+d)	22,292	33,691	33,808		
B. 執行済額		22,238	33,571	33,762		
うち交付金充当額		17,791	26,857	27,009		
次年度繰越額		－	－	－		
執行率（%）(B/A)		99.8%	99.6%	99.9%		

予算の状況の説明：予定していた事業は全て実施しており、予算執行はほぼ１００%であった。

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 26年度	27年度	28年度	29年度
ヤソ被害からの防除活動の実施	目　標	（防除活動の実施）	（　）	（　）	（　）
	実　績	防除活動の実施			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：収穫前のさとうきびをヤソからの被害を防ぐため、航空防除を１０月に、地上防除については周年をとおして宮古島一円(池間島、伊良部島を含む)で実施した。

成果目標(指標)及び進捗状況

H26成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
ヤソ被害からの防除剤の散布 1)航空防除:(宮古島市)池間、伊良部地区も含む　(12,100kg)	目　標	（　）	宮古島一円(池間島を除く)	宮古島･伊良部島	（12,100kg）	（　）
	実　績		宮古島一円(池間島を除く)	宮古島一円(池間島、伊良部島含む)	12,100kg	
2)地上防除:(宮古島市)池間、伊良部地区も含む　(900kg)	目　標	（　）	伊良部島	池間島	（900kg）	（　）
	実　績		伊良部島	宮古島一円(池間島、伊良部島含む)	900kg	

進捗状況説明：航空防除及び地上防除を実施したことにより、さとうきび畑のヤソ被害が減少し、収穫量の増加が見込まれる。平成２６年度８月に池間島でヤソの生態･生息域･個体数の捕獲調査を実施、平成２７年度８月に比較再調査を実施予定である。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	宮古島市の基幹産業であるさとうきびをヤソの被害から守ることによる収穫量の増加を目指し、ヤソの航空防除及び地上防除を実施した。 ヤソの生息地である樹木の茂み付近の農地については人力での防除作業は難しいことから航空ヘリを使用し空からの一斉防除を実施したが、空中散布では薬剤を散布できない牧草地や市街地を避けてのピンポイントでの散布作業が難しい。	防除効果をより高めるため航空防除では散布不可の市街地や畜舎･牧草地周辺の農地を所有する農家に対して、地上防除での防除作業の周知徹底を図る。 防除エリアの絞り込み･防除効果の検証のためヤソの生態･生息域･個体数の捕獲調査を実施予定である。

今後の取り組み方針

ヤソ被害からの防除活動を引き続き実施するほか、ヤソ被害を回避する為の周知活動を実施する。平成２７年度についてはヤソの繁殖時期とさとうきび収穫前の１０月頃に的を絞り、年２回の地上防除を実施予定している。また、防除エリアの絞り込み･防除効果の検証のためヤソの生態･生息域･個体数の捕獲調査を実施し、比較検証を行いサトウキビの増産につなげる。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
33,762	33,762	27,009	6,753	0

宮古島市 33,762千円
→ 委託料 17,642千円 → 中日本航空株式会社 17,642千円（殺鼠剤空中散布に係る委託業務）
→ 医薬材料費 16,120千円 → 沖縄県農業協同組合 宮古地区本部 16,120千円（殺鼠剤の購入 空中散布用 ： 14,820千円 地上散布用 ： 1,300千円）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○薬剤購入については、薬剤の代理店をJAが行っており、配送業務等の対応が可能な団体がJAに限られ、空中散布作業委託についても空中散布可能な装置を所有しているのが一社に限られているため、随意契約をしたが選定は妥当であると考える。 ○不用額は事業費の0．1%以下であり、適正な規模であった。 ○費目･使途については、事業完了報告書によって確認し適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目･使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宮古島市

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	6-②	生鮮水産物流通条件不利性解消事業		沖縄２１世紀ビジョン基本計画該当箇所	第３章－３－(12)－イ
					農林水産業の振興
担当部課名	農林水産部　水産課	事業実施(予定)年度	平成25～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-９

事業内容

離島という地理的事情から生じる流通条件の不利性を解消し、水産業の活性化を図るため、宮古島市に存する漁業協同組合（宮古島漁業協同組合、伊良部漁協同組合、池間漁業協同組合）が沖縄本島へ出荷する生鮮水産物の空路輸送に対し、補助金を交付する。

実施方法

□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a)当初予算額	13,750	14,025			
	(b)予算現額	5,550	1,530			
	(c)増減額(b-a)	▲ 8,200	▲ 12,495			
	(d)繰越額	－	－			
	A．計(b+d)	5,550	1,530			
B．執行済額		831	1,168			
うち交付金充当額		77	934			
次年度繰越額		－	－			
執行率（%）(B/A)		15.0%	76.3%			

予算の状況の説明：1kgあたりの補助単価は当初55円/kgであったが、単価の見直しにより平均6円/kgに引き下げとなったことから11月補正で予算12,495千円を減額した。また、漁獲量は天候に左右されるため計画どおりの出荷量を確保することは困難であることから不用額が362千円発生している。

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 26年度	27年度	28年度	29年度
生鮮水産物の沖縄本島への出荷補助	目　標	出荷補助(3漁協)	(　)	(　)	(　)
	実　績	出荷補助(1漁協)			
	目　標	(　)	(　)	(　)	(　)
	実　績				

達成状況説明：当初計画では3漁協での実施を予定していたが、生鮮水産物の補助単価の引き下げにより2漁協が未実施となり、伊良部漁協のみの実施となった。

成果目標(指標)及び進捗状況

H26成果目標(指標)		基準値(平成25年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(平成33年度)
生鮮水産物の沖縄本島への出荷量	目　標	(　250トン　)	(　250トン　)	(　255トン　)	(　)	(　280トン　)
	実　績		13.8トン	184.2トン		
	目　標	(　)	(　)	(　)	(　)	(　)
	実　績					

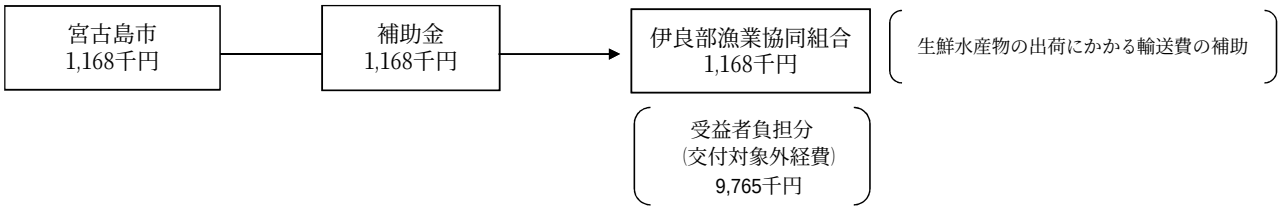
進捗状況説明：
○補助単価の引き下げにより本市に存する3漁協のうち2漁協が未実施となったこと、漁獲量は天候に左右されるため計画どおりの出荷量を確保することが困難であることなどから目標の達成には至らなかった。
○事業初年度である平成25年度は、事業採択の遅れにより輸送量の多い時期が過ぎた12月から3月までの4ヶ月弱の期間での実施であったため、目標値を大幅に下回ってしまったが、本年度については4月から事業を開始し、出荷量の多い夏場の時期に事業が実施できたことで、1漁協のみの実施であるにも関わらず前年度と比べ大幅に出荷量を伸ばすことができた。
○目標の達成に向けては、3漁協すべてにおいて事業を実施することが必要であると考えるため、本年度未実施の2漁協に対して事業の必要性や効果発現について意見交換等の協議を行い、平成２７年度における事業実施を促していきたい。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	○宮古島から沖縄本島への生鮮水産物の輸送は空路に限定されしまうため、本事業により空路と同距離の陸路輸送費並みとなるよう補助を行うことで、流通条件の不利性を解消し、販路拡大による水産業の活性化を図った。 ○補助金額の単価について当初空路輸送費と陸路輸送費の積算金額の差額である55円/kgとしていたところ、実際の空路輸送費から陸路輸送費の積算額を差し引いた額で算定することとなった為、取扱量が比較的少ない2漁協については、補助金額が少額となる可能性が想定されること等により事業実施に対し消極的となり、未実施となってしまった。 ○目標の達成に向けては、事業対象である3漁協すべてにおいて実施することが必要であると考える。 ○当事業の実施により、漁協への一元集出荷が進んでいることが輸送単価の低減へとつながり、また、品質管理にも一定の効果が見られるなど相乗効果が生まれている。	○未実施の2漁協に対し漁獲物の集出荷状況の現状確認を行い、また、本事業の必要性や効果発現について意見交換等の協議を行うことで、次年度の事業実施を促し、成果目標の達成につなげる必要がある。 ○宮古島～沖縄本島間における輸送形態に関しての現状確認や情報収集等を行い、事業実施者との共有を図っていく必要がある。

○本年度において未実施であった2漁協については集出荷状況の確認を行い、事業の必要性や効果発現について意見交換等の協議等を行い、平成27年度以降における事業実施を促していく。
○実施の1漁協については概ね計画どおりの実績となっているため、目標達成に向け引き続き支援を行っていく。
○市、3漁協、その他関係機関等を交えて適宜事業検証を行い、現状の確認、情報の収集・共有、課題の検証等を行っていく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
10,933	1,168	934	234	9,765



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助対象事業者である漁協は水産業協同組合法に基づき私的独占の禁止が謳われた組織であることから、支出先として妥当であると考えている。 ○補助単価の引き下げがあったことや、一元集出荷が促進され輸送単価が低減したことなどから、当初予算からの減額と不用額が発生し、適正な規模であったとは言い難い。 ○輸送費の実績値に対し要綱に基づき算定された額を補助しているため負担関係としては妥当である。 ○費目、使途については遂行状況や実績報告でその都度確認を行っており、精算時の検査により目的に即し必要なものであったと判断した。
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宮古島市

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	6－③	資源循環型農業推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－1－(2)－ア 3Rの推進
担当部課名	農林水産部　むらづくり課	事業実施(予定)年度	平成24～26年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1－(6)

事業内容

本市は、資源リサイクルセンターにおいて、家畜糞尿や枝葉等を利用して有機質肥料を製造し、農地へ還元するとともに化学肥料の低減や地下水の保全につなげている。しかし、家畜糞尿や剪定枝等以外の原材料に対し、既存の発酵槽では処理が十分に対応できない為、他の堆肥化原料の処理が行える発酵プラントを増設し、施設の機能強化を図る。

実施方法

■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	24年度(繰越)	25年度	26年度	27年度
予算の状況	(a)当初予算額	67,160	－	3,297	53,994	
	(b)予算現額	67,006	－	3,297	53,994	
	(c)増減額(b-a)	▲ 154	－	0	0	
	(d)繰越額	－	9,282	－	－	
	A. 計(b+d)	67,006	9,282	3,297	53,994	
B. 執行済額		55,492	9,282	3,150	52,704	
うち交付金充当額		44,393	7,425	2,520	42,163	
次年度繰越額		9,282	－	－	－	
執行率（%）(B/A)		82.8%	100.0%	95.5%	97.6%	

予算の状況の説明：委託設計費については当初予算の半額程度で受注されたことから、不用額が1,290千円発生している

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 26年度	27年度	28年度	29年度
発酵槽設備設計	目　標	（　実施設計　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	実施設計完了			
発酵槽増設工事の実施	目　標	（　発酵槽増設工事　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	発酵槽増設工事完了			

達成状況説明：堆肥の増産を図るため、平成26年度において発酵槽設置設計を行い、実施設計に基づき発酵槽設置工事(A区・B区・C区)を実施し、発酵槽の増設を平成26年12月に完了した。平成27年1月より供用を開始している。

成果目標(指標)及び進捗状況

H26成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
発酵プラントの整備及び稼働(1.2倍増産)	目　標	（　）	（整備・稼働・増産）	（　）	（　）	（　）
	実　績		整備・稼働			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：発酵槽の増設により、堆肥製造日数が従来の約90日から、約60日程度で製造できるようになった。
平成25年度の実績において2,400tの堆肥を製造しており、平成26年度は1.2倍の増産(2,900t)を目標としていたが、関係部署との調整不足により堆肥製造の原料である生ゴミの搬入がされず原料の量が前年度より減少し、目標である1.2倍の増産を達成できなかった。(平成26年度実績2,000t)
平成27年度は、目標達成に向けて生ゴミの再搬入、新たな原料(下水汚泥)の搬入を行うため、現在、関係部署と調整を行っており、原料の搬入増を図りながら堆肥増産を行っていく。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	家畜糞尿や枝葉等を利用して有機質肥料を製造し、農地へ還元するとともに化学肥料の低減や地下水の保全につなげることを目標に事業を実施している。 堆肥の増産を図るため、平成26年度において発酵槽設置実施設計、発酵槽設置工事（A区・B区・C区）を実施した。 平成25年度は、生ゴミの搬入を行っていたが、平成26年度から民間堆肥製造業者より、生ゴミを買い取りたいとの要望があり、民間業者に売却しており、リサイクルセンターに搬入されなくなった。生ゴミは現在搬入されない状況にあり原料の搬入減が課題となっている。	堆肥増産のためには原料が必要であり、現在回収している生ゴミの中で、事業系で持ち込まれる生ゴミについてはリサイクルセンターへ搬入させるよう調整を行っているところであり、再搬入に向け調整を行っている。また、新たな原料（下水汚泥）についても、関係部署と搬入に向け調整を行っており、堆肥増産を図るために取り組んでいるところである。

今後の取り組み方針

既存の発酵槽に加え、処理能力を上げるため発酵槽を増設することにより、身近な堆肥化原料を迅速かつ大量に処理し、堆肥を増産することが可能になる。生活用水の全てを地下水に頼っている宮古島市においては、化学肥料を減少させていく必要があり、リサイクルセンターにおいて製造される有機肥料の普及拡大を図っていく。

平成27年度は、生ゴミの再搬入、新たな原料（下水汚泥）の搬入をするために関係部署と調整を行っており、原料の搬入増を図りながら堆肥増産を行っていく。また、実証試験ほ場に製造した有機肥料の散布を行い、その効果を農家へ広め普及・販売を実施する。

資金の流れ

（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
52,704	52,704	42,163	10,541	0

宮古島市 52,704千円

→ 委託料 1,620千円 → 共和化工株式会社沖縄営業所 1,620千円（発酵槽設置設計・監理委託業務）

→ 工事請負費 51,084千円 → 共和化工株式会社沖縄営業所 51,084千円（宮古島市資源リサイクルセンター発酵槽設置工事）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○発酵槽システム工事についての対応が可能な業者が共和化工に限られ、また、特許を取得していることから随意契約としたが、選定は妥当と考える。 ○見積書の金額も妥当であり、不用額も3％以内であったため、適切であったと考える。 ○費目・使途については事業完了報告書によって確認し適性であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宮古島市

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	6－④	宮古島市海業センター整備事業		沖縄２１世紀ビジョン基本計画該当箇所	第３章－３－(7)－カ 亜熱帯･島しょ性に適合した農林水産業の基盤整備
担当部課名	農林水産部　水産課	事業実施(予定)年度	平成24～28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－１－(6)

事業内容	海業センターを機能強化することにより、養殖業の支援、栽培漁業の推進を図る為、取水管及び取水井戸、研修センターの建築に係る実施設計委託業務を実施する。
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	21,000	－	13,500		
	(b)予算現額	21,000	－	13,223		
	(c)増減額(b-a)	0	－	▲ 277		
	(d)繰越額	－	－	－		
	A．計(b+d)	21,000	－	13,223		
B．執行済額		21,000	－	13,223		
うち交付金充当額		16,800	－	10,578		
次年度繰越額		－	－	－		
執行率（%）(B/A)		100.0%	－	100.0%		

予算の状況の説明：入札残の277千円を補正により減額した。当初計画していた事業内容はすべて実施したほか、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 26年度	27年度	28年度	29年度
取水管測量設計委託業務の実施	目　標	（　測量設計　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	測量設計実施			
研修施設建築設計委託業務の実施	目　標	（　建築設計　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	建築設計実施			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：予定している施設の取水管測量設計委託業務、研修施設建築設計委託業務を実施した。

成果目標(指標)及び進捗状況

H26成果目標(指標)		基準値(23年度)	26年度	27年度	28年度	目標値（　年度）
取水管測量設計完了	目　標	（　）	（　完了　）	（　）	（　）	（　）
	実　績		完了			
研修施設建築設計完了	目　標	（　）	（　完了　）	（　）	（　）	（　）
	実　績		完了			

進捗状況説明：H25年度の海業センター再整備検討委員会での検討結果に基づき、取水管測量設計委託業務、研修施設建築設計委託業務を予定通り完了した。
今後は、設計に基づき取水施設･取水管･研修施設の整備計画を立て、工事着工について準備を進める。

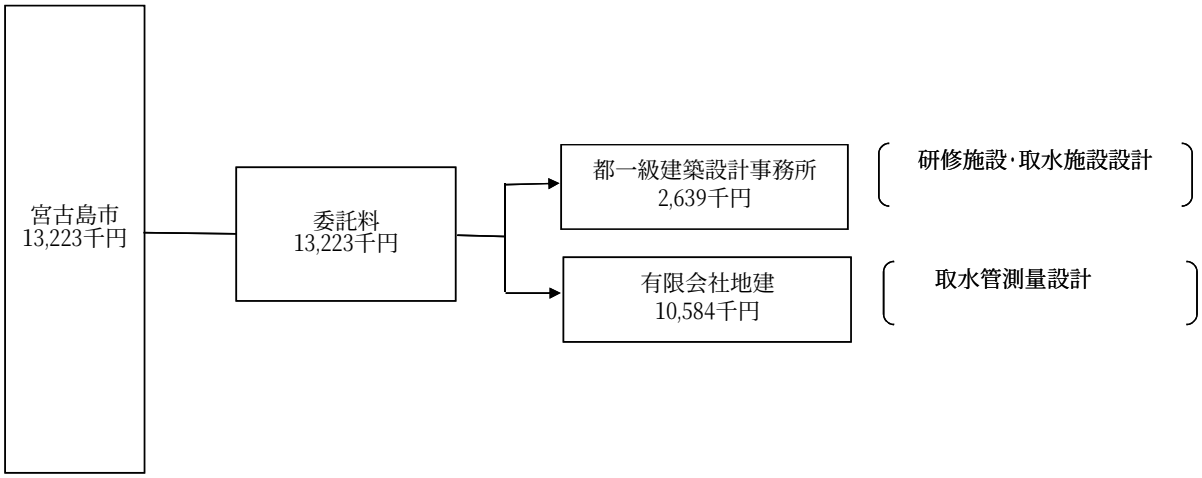
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・海業センターを機能強化し、種苗生産技術を向上させることで種苗の安定供給につなげ、また、養殖技術の向上のための研修支援を可能にすることで、宮古島市の水産業の振興を図る。 ・平成26年度予定していた取水管測量設計委託業務、研修及び取水施設建築設計委託業務は、契約期間内に業務を完了しており、内容に関しても精査したところ問題は無かった為、事業計画どおり推進することができた。 ・施設の活用に向けては、種苗生産の技術向上に向けた取り組み計画の立案及び漁業者の生産力向上や若手漁業者の育成の為の研修支援並びに体験学習の場としての機会をどのように創出していくか検討していく必要がある。	・施設整備にあたっては、取水管・取水施設・研修施設・水槽施設・太陽光発電の各施設の整備を計画的且つ効率的に行っていく必要がある。 ・施設の有効活用に向けては、種苗生産力の向上に向けた取り組みの検討を行い、また、研修支援については漁業者のニーズを集約し効果的な支援が行えるよう検討していく必要がある。

今後の取り組み方針

・平成27年度に取水施設、平成28年度に取水管設置、研修施設、平成29年度に水槽施設、太陽光発電設置の施設整備を計画的に事業実施を行っていく。
・施設の効果的な活用に向け、種苗生産力の向上及び養殖技術向上などの研修支援についてどのように取り組んでいくべきかの検討を行う。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
13,223	13,223	10,578	2,645	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 ○入札残による不用額は当初事業費の2％であり事業内容に見合った適正な規模であった。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宮古島市

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	6－⑤	新技術実証栽培施設（ポットファーム栽培施設）整備事業		沖縄２１世紀ビジョン基本計画該当箇所	第３章－３－（７）－オ
					農林水産技術の開発と普及
担当部課名	農林水産部農政課	事業実施（予定）年度	平成26年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－１－（６）

事業内容

新しい農業の形である、「育成ノウハウの共有･継承や環境情報･育成情報の整理及び履歴化などの環境変化や育成状況の見える化」、「再生可能なエネルギーの積極的な活用及びクリーンエネルギーを利用した停電対策などエコアイランドの推進」、「次世代の農業従事者の育成」を目標に実証施設を整備する。

実施方法

■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
予算の状況	(a)当初予算額	137,026				
	(b)予算現額	137,026				
	(c)増減額(b-a)	0				
	(d)繰越額	－				
	A．計(b+d)	137,026				
B．執行済額		135,684				
うち交付金充当額		108,547				
次年度繰越額		－				
執行率（%）(B/A)		99.0%				

予算の状況の説明：当初計画したポットファーム栽培施設は、事業計画どおり整備した。
不用額１，３４２千円は入札残によるものである。

活動目標（指標）及び達成状況

H26活動目標（指標）		達成状況 26年度	27年度	28年度	29年度
新技術実証栽培施設整備	目　標	（ポットファーム施設整備）	（　）	（　）	（　）
	実　績	ポットファーム施設整備			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：新技術実証栽培施設として、独立したポットに溶液を入れ栽培をするポットファーム栽培施設を整備した。同施設は、風力と太陽光からのクリーンエネルギーを活用してコンピュータで生育を管理する。

成果目標（指標）及び進捗状況

H26成果目標（指標）		基準値（24年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（　年度）
栽培施設（ハウス）の整備完了	目　標	（　）	（栽培施設整備完了）	（　）	（　）	（　）
	実　績		栽培施設整備完了			
栽培施設（ハウス）作業棟の整備完了	目　標	（　）	（作業棟整備完了）	（　）	（　）	（　）
	実　績		作業棟整備完了			
再生可能エネルギ設備の整備完了	目　標	（　）	（再生可能エネルギー施設整備完了）	（　）	（　）	（　）
	実　績		再生可能エネルギー施設整備完了			

進捗状況説明：栽培施設として1143.9㎡のハウスを一棟整備し、作業棟94㎡を整備した。また、再生可能エネルギー設備を整備した。栽培施設では実証栽培を行い、作業棟では集出荷やPCS等の利用を図る。再生可能エネルギー設備では発電した電気を栽培施設に供給し実証を行う。
平成27年度から上記の施設を活用し、新しい農業の担い手の育成を開始し、新規就業農業者として独立を後押しする。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	宮古島市においては、施設園芸の担い手が増えてきているが、拠点産地の作物を含めて生産量の向上がなかなか見込めない状況である。新しい栽培技術を確立し生産量を向上させる為、平成26年度事業で新技術実施栽培施設（ポットファーム栽培施設）を整備し、6月から稼働させる予定である。 26年度の事業実施においては、計画のとおり公募・入札を実施し、事業も契約期間に完了している。不用額も1％以内に納めており、特に課題は見当たらない。 今後の課題としては、ポットファーム栽培施設実証の結果を宮古島の新しい農業として普及させていくことが考えられる。	26年度事業においては、計画どおり栽培施設・作業棟・再生可能エネルギー設備を整備しており、特に課題は見当たらない。 今後はポットファーム栽培施設の実証実験を行いながら、新しい農業の研修の場として、担い手育成を図ることによって普及を図り、新規就農者としての独立を後押しする。

今後の取り組み方針

実証栽培施設ではトマト栽培を実施する予定である。平成27年6月上旬に定植を行い、新規就農者の育成及び研修を図り、農業の活性化につなげる。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
135,684	135,684	108,547	27,137	0

宮古島市 135,684千円
- 工事請負費 64,404千円 → 有限会社アコープランニング 64,404千円（新技術実証栽培施設設置工事）
- 委託費 71,280千円 → 日本電気株式会社沖縄支店 71,280千円（再生可能エネルギー利用型育成情報管理システム）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託は、公募による業者選定、工事発注は一般競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 ○不用額は事業費の1％以内であり適正な規模であった。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宮古島市

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	6－⑦	側面透過型糖度計導入事業		沖縄２１世紀ビジョン基本計画該当箇所	第３章－３－(7)－(イ) 流通･販売･加工対策の強化
担当部課名	農林水産部農政課	事業実施(予定)年度	平成26年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－１－(6)

事業内容

定品質のマンゴー出荷と宮古島産マンゴーのブランド化を推進する為、生産農家に対し側面透過型糖度計の導入支援を行う。

実施方法

□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
予算の状況	(a)当初予算額	32,750				
	(b)予算現額	32,750				
	(c)増減額(b-a)	0				
	(d)繰越額	－				
	A. 計(b+d)	32,750				
B. 執行済額		28,157				
うち交付金充当額		22,525				
次年度繰越額		－				
執行率（%）(B/A)		86.0%				

予算の状況の説明：要項に基づき補助金申請を受け、28農家に交付した。不用額の4,593千円については、側面透過型糖度計を一括購入を行う形で入札を行った事により、単価が安くなった事によるものである。

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 26年度	27年度	28年度	29年度
側面透過型糖度計の導入	目　標	（　導入　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	導入			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：定品質のマンゴー出荷と宮古島産マンゴーの品質向上を推進する為、生産農家２８戸に対し側面透過型糖度計の導入支援を行った。

成果目標(指標)及び進捗状況

H26成果目標(指標)		基準値(24年度)	26年度	27年度	28年度	目標値（　年度）
側面透過型糖度計導入完了と生産農家への指導方針のとりまとめ	目　標	（　）	（導入完了･取りまとめ）	（　）	（　）	（　）
	実　績		導入完了			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：糖度計を28戸の生産農家に導入し、出荷が始まる平成27年6月下旬(予定)から各戸での利活用を開始する。年度ごとに生産農家から糖度計の利用実績を提出させることにより、マンゴーの品質の向上を目指す。
糖度計を導入した生産農家への指導方針については、導入後の実績を基に取りまとめることとしたため、平成26年度は実施していない。平成27年度は宮古島市マンゴー産地協議会等と協力しながら、同年6月下旬以降(予定)の糖度計利用実績を基に生産農家に対して指導を行い、マンゴーの品質向上に取り組む。

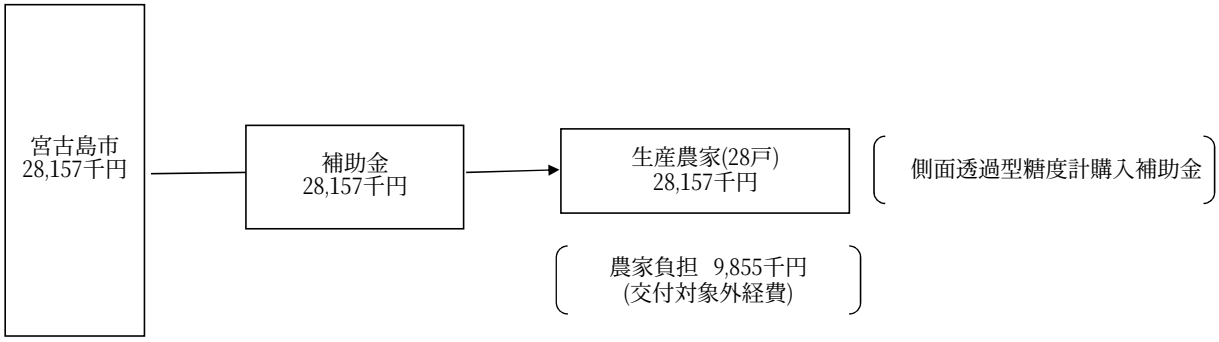
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	宮古島市の特産品であるマンゴーについては、年々生産量が増加しているところではあるが、生産量の増加と供に品質のバラツキが目立つようになり、低品質なマンゴーが市場に出回るようになる課題が出てきた。 定品質のマンゴー出荷と宮古島産マンゴーの品質向上を推進する為、生産農家に対し側面透過型糖度計の導入支援を行った。 26年度の事業において、要綱の策定をし補助金を交付したが、補助申請手続き、審査、交付決定までの一連手続きにおいて特に不備もなく、生産農家に対する側面透過型糖度計の導入支援を行うことができたので特に課題は無い。	26年度事業の実施において、手続きに不備もなく生産農家へ側面透過型糖度計の導入支援を行うことができたので改善点はないと考える。 今後の課題としては、側面糖度計の活用状況の把握及び活用によるマンゴーの品質向上である。側面透過型糖度計を補助した農家には、利用実績を提出させ、一定の品質を保ったマンゴーを出荷するよう促し、品質の向上を図る。

今後の取り組み方針

平成27年度は、マンゴーの出荷が始まる6月下旬（予定）から、各生産農家における糖度計の利活用を開始し、同期間における糖度計利用実績を基に、宮古島市マンゴー産地協議会等と協力しながら生産農家に対して指導を行い、マンゴーの品質向上に取り組む。
側面透過型糖度計を活用することにより品質の向上や品質の統一を図り、宮古島産マンゴーのブランド化を図る。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
38,012	28,157	22,525	5,632	9,855



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○交付要項に基づき、補助をする生産農家選定しているため妥当である。 ○不用額の14%については、入札により糖度計の単価が安くなった事によるものである。 ○補助金額は、交付要綱に基づき決定しており、受益者も相当額負担してるため妥当である。 ○費目、使途については交付要項に基づき審査しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宮古島市

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	７－①	離島急患搬送傭船事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－2－(3)－ウ 県民ニーズに即した保健医サービスの推進
担当部課名	消防本部　総務課	事業実施(予定)年度	平成25～26年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－4

事業内容	伊良部島及び大神島において定期航路や定期航路時間外に宮古本島の病院へ移送を要する急患が発生した場合、定期船及び傭船による搬送を行う。
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a)当初予算額	2,240	2,240			
	(b)予算現額	2,500	2,840			
	(c)増減額(b-a)	260	600			
	(d)繰越額	－	－			
	A. 計(b+d)	2,500	2,840			
B. 執行済額		2,471	2,722			
うち交付金充当額		1,977	2,177			
次年度繰越額		－	－			
執行率（%）(B/A)		98.8%	95.8%			
予算の状況の説明		･当初予定していた急患搬送体制は確保できたため活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。 ･当初計画より急患の搬送回数が多かったため平成27年1月に流用し事業費を増額したが、急患発生回数が不透明のため見込額の誤りで不用額が出た。				

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
船舶会社との急患搬送業務委託締結	目　標	（3業者との委託契約締結）	（3業者との委託契約締結）	（　）	（　）
	実　績	3業者との委託契約締結	3業者との委託契約締結		
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明

伊良部島-宮古本島を運行する海運業者(2社)及び大神島-宮古本島を運行する海運業者(1社)の計3社と定期航路及び傭船契約を締結したことにより、夜間時での急患発生にも宮古本島への搬送が容易になり、より高度な医療が受けられ、離島住民の救命率の向上と、安心な暮らしが確保できた。

成果目標(指標)及び進捗状況

H26成果目標(指標)		基準値(　年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(　年度)
急患搬送体制の安定的確保	目　標	（　）	（搬送体制の安定確保）	（搬送体制の安定確保）	（　）	（　）
	実　績		搬送体制の安定確保	搬送体制の安定確保		
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明

海運業者(3社)と定期航路及び定期航路時間外(傭船)の契約締結を行い、急患が発生した場合、昼夜問わず高度な医療が受けられる宮古本島への搬送が容易になった。(26 年度は289 名の急患を搬送した。)

伊良部島への急患搬送については、伊良部大橋が開通したことにより、陸上における急患搬送が可能となったため、平成27年1月で急患搬送を終了、伊良部島の海運業者(2社)との契約を解除した。

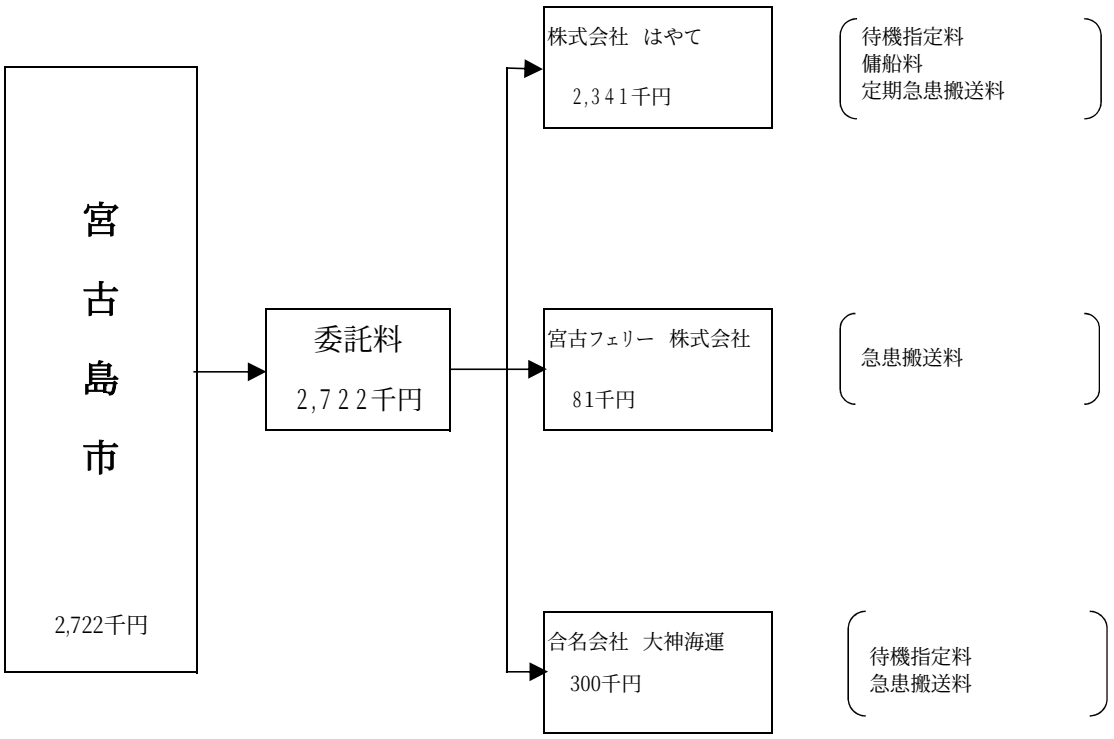
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	急患が発生した場合、高度な医療が受けられる本島医療機関への搬送体制安定確保のために事業を実施した。 伊良部大橋が開通したことにより、平成27年1月をもって伊良部島への急患搬送（傭船事業）は終了した。 大神島については急患搬送体制の安定確保を進める中で、海運会社が1社しかなく予備の海運会社の確保ができないこと、気象条件（海上波浪警報等）により、急患搬送が出来ない問題点がある。	伊良部大橋が開通したことにより、急患が発生した場合、昼夜問わず救急車等で高度な医療が受けられる本島の医療機関を容易に受診され、これまでの海上輸送と違い、大幅な時間短縮と傷病者の精神的･肉体的負担の軽減になり、救命率の向上につながった。 大神島における予備の海運会社の確保については、船の利用者が限られる事もあり現実的ではない。気象条件については、船舶の大型化により改善は可能ではあるが、船の利用者や維持管理の観点から、実施は困難な状況である。

今後の取り組み方針

伊良部大橋の開通により、伊良部島における海上輸送の必要がなくなり、平成27年1月で伊良部島における急患搬送業務は終了した。
大神島における急患搬送は、今後も必要なことから平成27年度は市負担で継続実施していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,722	2,722	2,177	545	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は地元海運業者に限定されているため、妥当であると考える。 ○予算規模は実績により変化したがほぼ適正な規模であった。 ○品目･使途については月極精算の段階で検収されており、事業目的に即し必要なものに限定されていると判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目･使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	8－①	スクールソーシャルワーカー活用事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－5－(3)－イ 豊かな心とたくましい体を育む教育の推進
担当部課名	教育部学校教育課	事業実施(予定)年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－(1)

事業内容

本市児童生徒の個々に応じた支援の充実に向けて、スクールソーシャルワーカーを教育委員会に配置し、学校からの要請に応じて、学校及び対象児童生徒宅などを訪問し、保護者を交えた相談活動を通して、ニーズを把握した上で、学校、関係機関、地域の協力者等と連携･協働しながら、同児童生徒の生活環境改善のための支援を行う。

実施方法

■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	4,677	6,858	10,097		
	(b)予算現額	4,677	6,858	10,097		
	(c)増減額(b-a)	0	0	0		
	(d)繰越額	―	―	―		
	A. 計(b+d)	4,677	6,858	10,097		
B. 執行済額		4,266	6,400	10,025		
うち交付金充当額		3,413	5,120	8,020		
次年度繰越額		-	-	-		
執行率（%）(B/A)		91.2%	93.3%	99.3%		

予算の状況の説明：･予算執行率99%で、事業計画どおり執行を行った。

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 26年度	27年度	28年度	29年度
スクールソーシャルワーカーの配置	目　標	（　配置　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	配置			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：
･平成26年4月から平成27年3月まで6人のスクールソーシャルワーカーを配置した。
･対応小中学校の増加もあったが、スクールソーシャルワーカーの人員増もあり、学校や臨床心理士、医療福祉機関等と連携しながら、適応指導教室につなげることで不登校児童生徒数が減少した。
･経済的問題等、保護者が社会サービスや福祉制度を活用しやすいようにサポートし、家庭環境改善に向けた支援を行うことで、児童生徒の学校生活の安定を図ることができた。

成果目標(指標)及び進捗状況

H26成果目標(指標)		基準値（年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（33年度）
スクールソーシャルワーカー配置数 教育委員会　学校教育課　：　6人	目　標	小中学校:4人（校区別）	小中学校:4人（校区別）	小中学校4人（校区別）	小中学校6人（校区別）	小中学校6人（校区別）
	実　績		小中学校:4人（校区別）	小中学校4人（校区別）	小中学校6人（校区別）	
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：
･6名のスクールソーシャルワーカーの配置により、問題行動等の児童生徒及び保護者に対して、学校･家庭と関係機関を結び生活面の改善が図られた。
･学校や関係機関等と連携を図りながら、保護者や児童生徒を支援することで家庭環境の改善がみられた。
･不登校児童･生徒の学校復帰に大きな効果があった。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	平成26年度ソーシャルワーカー（ＳＳＷr）配置事業を推進する中で、学校や家庭において生活困難な児童・生徒とその保護者に対して、家庭訪問等を通して相談を重ね、適切な関係機関（福祉、医療、警察）等へつなぐ支援活動を学校と連携して行うことができた。当該実績は子供を支える教師や保護者等に、ＳＳＷrの役割の理解を深めるとともに、そのニーズを高めている。さらに２６年度は６名のＳＳＷrを市内全小中学校へ分担配置して活動を行ったことで、各学校や地域の課題を持つ子供や保護者に対して継続的な支援を行うことができたことにより、DVや虐待などの課題に対して、緊急的に福祉施設や警察への相談や接続等の支援効果や児童生徒自身が抱える問題（病気、アレルギー、遊び非行、引きこもり）などに対して医療、福祉機関や児童家庭課等への接続や継続的な見守り支援による生活改善を図ることができた。	・SSWr事業の認知度を図りスムーズに保護者等と連携が図れるようにする。 ・平成26年度において行った6名のSSWrの学校分担においてなされた支援内容を量的、質的な観点から検証し、弾力的な配置の検討を行い、より効果的に事業を推進する。また、SSWrのスキルアップを図るための研修会や他機関（医療、福祉、警察など家庭や個人を支援する機関の担当者）との連絡会の開催などにより改善を図る。

今後の取り組み方針

・SSWr事業の教師や保護者への周知を図るためパンフレットの作成や配布や学校訪問等に取り組む。
・SSWrのスキルアップの取り組みとして「事例検討会」「教育相談等連絡会」「福祉医療等制度の勉強会」等の研究及び研修を実施する。
・学校訪問による課題を持つ子供への支援や家庭の情報連絡会の開催、連携支援を実施する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
10,025	10,025	8,020	2,005	0

宮古島市
10,025千円

- 報酬（6人）9,758千円 ｛小学校20校、中学校15校：スクールソーシャルワーカー6人で対応｝
- 事務費 267千円 ｛需用費、旅費等｝

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○SSWrの選定に当たっては、専門的な知識や技術、経験等に基づいており妥当であったと考える。 ○長期実績を踏まえたスクールソーシャルワーカー配置人数は適正で,その報酬額は本市要綱に基づき予算化しており,事業内容に見合った適正規模であったと考える。 ○費目・使途については、報酬をはじめ、スクールソーシャルワーカーの資質向上に向けた研修会派遣など、事業目的達成の観点から真に必要であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宮古島市

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	8－②	問題行動等学習支援者配置事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－5－(3)－イ 豊かな心とたくましい体を育む教育の推進
担当部課名	教育部学校教育課	事業実施(予定)年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－(1)

事業内容

本市の不良行為や不登校等の問題を抱えた児童生徒への適切な指導･支援の取り組み強化に向けて、問題行動等学習支援者を対象児童生徒の在籍する学校に配置する。

実施方法

■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	2,886	4,910	4,890		
	(b)予算現額	2,886	4,910	4,890		
	(c)増減額(b-a)	0	0	0		
	(d)繰越額	―	-	-		
	A. 計(b+d)	2,886	4,910	4,890		
B. 執行済額		2,886	3,825	4,294		
うち交付金充当額		2,309	3,060	3,435		
次年度繰越額		-	-	-		
執行率（%）(B/A)		100.0%	77.9%	87.8%		

予算の状況の説明

･不用額596千円が発生しているのは、年度当初3ヶ月間1名の支援員が確保出来なかったためである。

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 26年度	27年度	28年度	29年度
問題行動学習支援者の配置	目　標	（　配置　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	配置			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明

･平成26年4月から6月までの間、2人、7月から平成27年3月までの間3人の学習支援者を、派遣を希望する学校に配置したことにより、個別相談や学習支援ができ、不登校など生徒の問題行動の減少につながった。(暴力行為:4件減少、不登校･授業態度など14人程度改善)
･日常的に問題を抱える子に積極的に関わり、豊かな体験活動、学習支援の取り組みを行うことで生活改善を図った。

成果目標(指標)及び進捗状況

H26成果目標(指標)		基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
問題行動学習支援者配置数 中学校:3人	目　標	（中学校 3人）	（中学校 3人）	（中学校 3人）	（中学校 3人）	（　）
	実　績		中学校:3人	中学校:3人	中学校:3人	
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明

･不登校生徒へ対して粘り強い登校支援をすることにより、登校復帰する生徒が増えた。(平成25年度　不登校児23名中1名が登校復帰→平成26　年度　不登校児27名中16名登校復帰)
･校内において、別室支援により生徒の個別課題に寄り添うことで、暴力行為等が減少し未然防止の役割を大きく担っている。(平成25年度　11件→平成26年度　7件)
･日頃の学習支援等の関わりで、問題行動等の早期発見、未然防止につながっている。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・平成26年度において、問題行動学習支援員による保健室登校や教室に入れない生徒への別室学習支援及び相談活動を行ったことにより、個々の生徒の特性を理解し、課題に応じた生活上の支援や抱えている問題の解決に取り組み、生徒の登校復帰を実現するなどの成果を上げた。また、生徒指導主任と連携して遊び非行型の生徒の登校支援や不登校生徒の家庭訪問等を行い、生徒の所在の確認、学校での居場所作りなどを行うことにより、学校復帰を果たす生徒が増えた。	・教室には入れない生徒の学校における居場所の確保と生徒の抱える課題に応じて学級担任及び教科担任と連携して学習プログラムを作成し効果的な支援を図る。 ・学校へ登校できない生徒（不登校を含む）に対して、継続的な登校支援を行うとともに生徒の特性に応じて体験活動の実施や他支援員（ソーシャルワーカーやスクールカウンセラー等）とのチーム支援による共同実践など複数の視点で取り組みの充実を図る。 ・学習支援員のケース会議や研修会への参加など資質・能力の向上を図る。

今後の取り組み方針

(平成27年度の取り組み)
・学級担任や教科担任、生徒指導主任と連携し個別支援プログラムを作成し、プログラムの実践において生徒の登校復帰を促す取り組みを行う。
・不登校生徒の個々の特性を踏まえた他支援員及び関係機関（福祉、医療、警察など）との共同実践により、生徒の登校復帰を目指した取り組みを行う。
・「校内生徒指導委員会」「ケース会議」スクールカウンセラーによる「カウンセリング講座」などへの参加により学習支援員の資質・能力の向上を図る取り組みを行う。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
4,294	4,294	3,435	859	0

宮古島市
4,294千円

賃金
4,294千円

（問題行動学習支援員（3人）の賃金）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支援員の選定に当たっては、専門的な知識や技術、経験等に基づいており妥当であったと考える。 ○配置人数は適正で,その報酬額は本市要綱に基づき予算化しており,事業内容に見合った適正規模であったと考える。 ○費目・使途については、本市要綱に基づいた賃金であり、適正であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宮古島市

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	8－③	選手派遣補助金交付事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－5－(2)－ア 教育機会の拡充
担当部課名	教育部学校教育課	事業実施(予定)年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－(1)
事業内容	本市の児童生徒のスポーツ、文化活動において、地区選抜代表選手として、県大会や全国大会への派遣旅費について補助を行う。				
実施方法	□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	5,144	20,355	15,591		
	(b)予算現額	7,508	17,581	15,591		
	(c)増減額(b-a)	2,364	▲ 2,774	0		
	(d)繰越額	－	－	－		
	A. 計(b+d)	7,508	17,581	15,591		
B. 執行済額		5,578	12,595	13,020		
うち交付金充当額		4,462	10,076	10,416		
次年度繰越額		－	－	－		
執行率（%）(B/A)		74.3%	71.6%	83.5%		
予算の状況の説明		･往復航空券の早割購入等で支出が抑えられたことや派遣を想定していた大会に出場出来なかったこと等により、2,571千円の不用が生じている。				

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
H26年度計画人数 大会等派遣児童生徒数:1,944人 ○内訳 小学校　769人(県外含む) 中学校　1,175人(県外含む)	目　標	(　1,677人　)	(　1,995人　)	(　1,944人　)	(　　)
	実　績	1,887人	1,762人	1,712人	
	目　標	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)
	実　績				

達成状況説明：･スポーツや文化面で、地区代表選手として派遣される児童生徒(小学校587人･中学校1,125人)に対し、補助金を交付した。沖縄本島での大会への不参加や当市で開催された県大会(ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ、ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙなど)があったことにより派遣人数が目標に達することが出来なかった。

成果目標(指標)及び進捗状況

H26成果目標(指標)		基準値(H23年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(33年度)
補助による保護者負担の軽減	目　標	(　　)	(補助による保護者負担の軽減)	(　　)	(　　)	(　　)
	実　績		補助による保護者負担の軽減			
	目　標	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)	(　　)
	実　績					

進捗状況説明：･沖縄本島での大会への不参加や当市で開催された県大会があったことにより派遣人数が少なくなったが、各小中学校を通じて要望された大会等の派遣補助についてはすべて実施しており、生徒の派遣による負担軽減を図ることができたと考えられる。

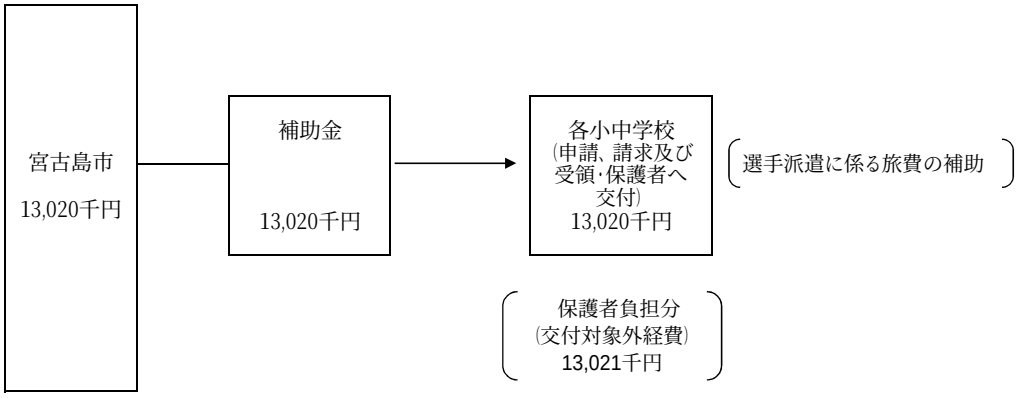
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・宮古島市立学校のスポーツ、文化活動を振興するため、対外行事・試合などの奨励に資するとともに、参加する児童・生徒の派遣にかかる費用の保護者負担を軽減する目的で、予選大会の上位3団体及び上位3名や地区選抜代表選手に対し、航空賃に係る費用の半額を補助した。 今年度は当市で開催された2つの県大会において派遣を必要としなかったことや想定していた大会へ出場出来なかったことなどで目標値を下回る結果となってしまった。	・県大会の開催地の情報入手など、小中学校の大会関係者への制度の周知と意見交換が必要と考える。 ・また、航空券の購入の際の注意として、補助の上限額となる離島割や小児運賃割について改めて周知を行い、事務手続きで誤りや申請もれがないよう、申請校へ事業の周知を行い、スムーズな事業運営を図る必要がある。

今後の取り組み方針

・年度早期に小中学校に対する事業周知び小中学校の大会関係者に対する制度周知並びに意見交換を行い、さらにスムーズな事業実施に取り組む。
・宮古島と沖縄本島を結ぶ航路を就航していた航空会社3社のうち1社の撤退により航空運賃の増額が懸念されているところ。派遣にかかる費用の保護者負担を軽減するため、本事業により継続支援していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
26,041	13,020	10,416	2,604	13,021



資金の流れ、費目・使途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○派遣される児童生徒を取りまとめる学校長を支出先とすることは適正であったと考えている。 ○予算規模は各航空会社の運賃を勘案しながら決定しているため適正な規模と考えている。 ○航空運賃に対し一部補助を行っており、受益者である保護者の負担もあることから、負担関係は妥当であったと考える。 ○費目・使途については、交付要綱に基づいた目的に限定して検査及び交付している。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宮古島市

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	8-④	宮古島市こども劇団設立事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－5－(1)－ア 地域を大切にし、誇りに思う健全な青少年の育成
担当部課名	生涯学習部　文化ホール	事業実施(予定)年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－(1)

事業内容

こども劇団を設立し、演技を通して児童生徒の人格形成を図りながらコミュニケーション能力を高め、社会性を理解する力を育むと共に、オリジナル作品を発表し、宮古島を表現することで、地域のアイデンティティーを共有し、地域の誇りを伝承する礎とする。

実施方法

■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	6,126	15,805	13,453		
	(b)予算現額	6,126	15,805	13,453		
	(c)増減額(b-a)	0	0	0		
	(d)繰越額	－	－	－		
	A. 計(b+d)	6,126	15,805	13,453		
B. 執行済額		6,076	14,443	11,536		
うち交付金充当額		4,861	11,554	9,228		
次年度繰越額		－	－	－		
執行率（%）(B/A)		99.2%	91.4%	85.8%		

予算の状況の説明：不用額1，917千円が発生しているが、東京公演に係る旅費に関して格安航空券を利用したことによるものである。

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 26年度	27年度	28年度	29年度
オリジナル創作劇東京公演	目　標	（東京公演実施）	（　）		（　）
	実　績	東京公演実施			
オリジナル創作劇宮古公演	目　標	（宮古公演実施）	（　）		（　）
	実　績	宮古公演実施			

達成状況説明：

オリジナル創作劇「はしり星にのって」の東京公演を平成26年7月26日、27日の2日間、東京都杉並区の「座・高円寺1」(会場)で行い会場の収容定数である510人を集客することができた。
宮古公演は、平成27年1月25日にマティダ市民劇場で行い、伊良部架橋に伴うイベントが重なったこともあり目標数500人に届かなかった。(481人)

成果目標(指標)及び進捗状況

H26成果目標(指標)		基準値（年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（年度）
東京公演：3回上演	目　標	（　）	（3回上演）	（　）	（　）	（　）
	実　績		3回上演			
宮古公演：2回上演	目　標	（　）	（2回上演）	（　）	（　）	（　）
	実　績		1回上演			

進捗状況説明：

東京公演は目標の上演数を達成したが、宮古上演は子供達による大道具等の片付けで帰宅時間を考慮し上演を1回とした。
東京公演では、今から130年前人頭税時代の過酷な税金に苦しむ宮古島の暮らし等を舞台で臆することなく緊張しながらも堂々と演じ、特に「流ちょうな宮古島方言（しまくとぅば）」のセリフで演じているので（字幕スーパー入り）、作品をとおして大都会の人々に宮古島の歴史と文化を発信することができました。舞台と観客が一体となり、観客の中には、「宮古島へ行ってみたい」10代女の子は「自分と同じ年代が、こんなにも表現できるのか感激した。」などの感想がありました。脚本については、「演劇誌」に掲載され、全国の演劇関係者へ周知することができた。
また、作品の照明プランが日本照明家協会の照明部門で奨励賞を受賞し、舞台技術においても高い評価を受けている。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	子ども劇団の目的は考える能力を養い、そして自己の考えをうまく表現して相手に伝える技術の創出である。今年度は、オリジナル創作劇の公演を宮古島、東京の2箇所で実施した。 東京公演においては、舞台が小さいので演技が小さくなり、緊張し表現が普段と違う等、子どもたちの演技における課題が残った。 さらに宮古島と舞台の規模が違うので、舞台効果は、舞台背景幕等の縮小による大道具、照明の縮小版を作り上げねばならず苦労した。	子ども達が自己表現能力を緊張なく相手に思いを伝えていくためには、稽古量を増やす、役者（子供達）自身で考えを創造する、プロの指導者の指導を継続的行うことにより改善できると考える。 舞台効果については、東京側のスタッフと何度も打ち合わせを行った結果舞台製作が可能となった。今後島外で公演する場合においては、舞台効果についても考慮しながら会場を調整していく必要がある。

今後の取り組み方針

平成２４年度から一括交付金事業を活用して事業を実施してきたが、平成２７年度から、劇団運営を市直営から父母会に移譲するため、自立運営ができるよう支援をしていく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
12,125	11,536	9,228	2,308	589

- 事業費 11，536千円
  - 委託料 2，598千円
    - （株）パック宮古支社 745千円 ［東京公演に係る舞台制作委託業務］
    - SING-KEN-KEN 408千円 ［東京公演に係る舞台音響委託］
    - 龍前正夫舞台照明研究所 254千円 ［東京公演に係る照明委託］
    - 演出家 270千円 ［東京公演に係る演出委託］
    - （株）パック宮古支社 651千円 ［宮古公演に係る舞台制作委託］
    - 演出家　杉本孝司 270千円 ［宮古公演に係る演出委託業務］
  - 旅費 6，167千円 ［東京公演事務調整、演劇指導者及び東京公演に係る関係者の航空運賃］
  - 報償費 129千円 ［演技指導3人、舞踊・髪結い指導1人］

〔交付対象外経費589千円〕

- 事業費 2，642千円 ［需用費、役務費使用料及び賃借料］

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○舞台制作は宮古島市唯一のイベント会社に委託、演出は日本でも屈指の子ども劇団向け演出指導者を選定、東京公演は舞台劇専門の座高円寺1を選定した。より高度で専門性を有し信頼性の高い業者の選定を行っている。 ○予算については、不用額1，917千円が発生しているが、格安航空券の利用によるものであり適正な規模と考える。 ○費目、使途については委託料、旅費、補償費、事業費等と必要経費に限定されて活用されている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宮古島市

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	９－①	水道水源流域保全調査及び啓発事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第5章－3－(4)－エ 生活圏の充実(生活環境基盤等の整備)
担当部課名	上下水道部水道総務課	事業実施(予定)年度	平成24～26年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－10－(1)
事業内容	H24～25年度において、本市水道水源流域で最も重要な白川田･東添道地下水流域について、地下水流域境界と同流域における地下水貯水量を明らかにするための調査を実施している。H26年度においては、調査結果を活用して「第3次宮古島市地下水利用基本計画」の改訂を行い、中長期スパンでの計画的な地下水利用と保全を図る。また水道水源保全地域であることを示し地下水保全を呼びかける啓発のための表示版を設置する。				
実施方法	■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	24,267	99,960	18,549		
	(b)予算現額	24,267	99,960	18,549		
	(c)増減額(b-a)	0	0	0		
	(d)繰越額	－	－	－		
	A. 計(b+d)	24,267	99,960	18,549		
B. 執行済額		24,267	99,960	14,807		
うち交付金充当額		19,413	79,968	11,845		
次年度繰越額		－	－	－		
執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%	79.8%		
予算の状況の説明		入札残及び、看板設置場所の用地交渉等が不成立となり設置基数が減ったため、不用額(3，742千円)が生じている。				

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 26年度	27年度	28年度	29年度
第3次宮古島市地下水利用基本計画の改定に係る取組	目　標	（基本計画改定）	（　）	（　）	（　）
	実　績	基本計画改定			
同計画の印刷製本	目　標	（印刷製本）	（　）	（　）	
	実　績	印刷製本			
水道水源保全地域表示看板設置	目　標	（表示看板設置）	（　）	（　）	（　）
	実　績	表示看板設置			

達成状況説明：平成24～25年度にかけて実施した調査結果に基づき、第3次宮古島市地下水利用基本計画を改訂した。印刷製本(300部)した同計画は、関係機関や関係個人等に配布し、円滑な基本計画の運用に理解と協力を要請した。また水道水源保全地域であることを示し地下水保全を呼びかける表示看板を31カ所に設置し、一般への周知を図った。

成果目標(指標)及び進捗状況

H26成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
第3次宮古島市地下水利用基本計画改定版の発効及び運用開始	目　標	（　）	（基本計画改定）	（　）	（　）	（　）
	実　績		基本計画改定			
同計画印刷製本及び配布数:300部	目　標	（　）	（300部）	（　）	（　）	（　）
	実　績		300部			
水道水源保全地域表示看板設置数:60基	目　標	（　）	（60基）	（　）	（　）	（　）
	実　績		31基			

進捗状況説明：平成24～25年度にかけて実施した調査結果に基づき、第3次宮古島市地下水利用基本計画を印刷製本(300部)し関係機関等へ配布した。また、水道水源保全地域であることを示し地下水保全を呼びかける表示看板(31基)を設置した。尚、表示看板については、用地交渉(無償借用)等の不成立や、現場を確認したところ一般へに周知する効果的な場所が無いという理由により、目標数60基を達成できず、設置数31基となった。

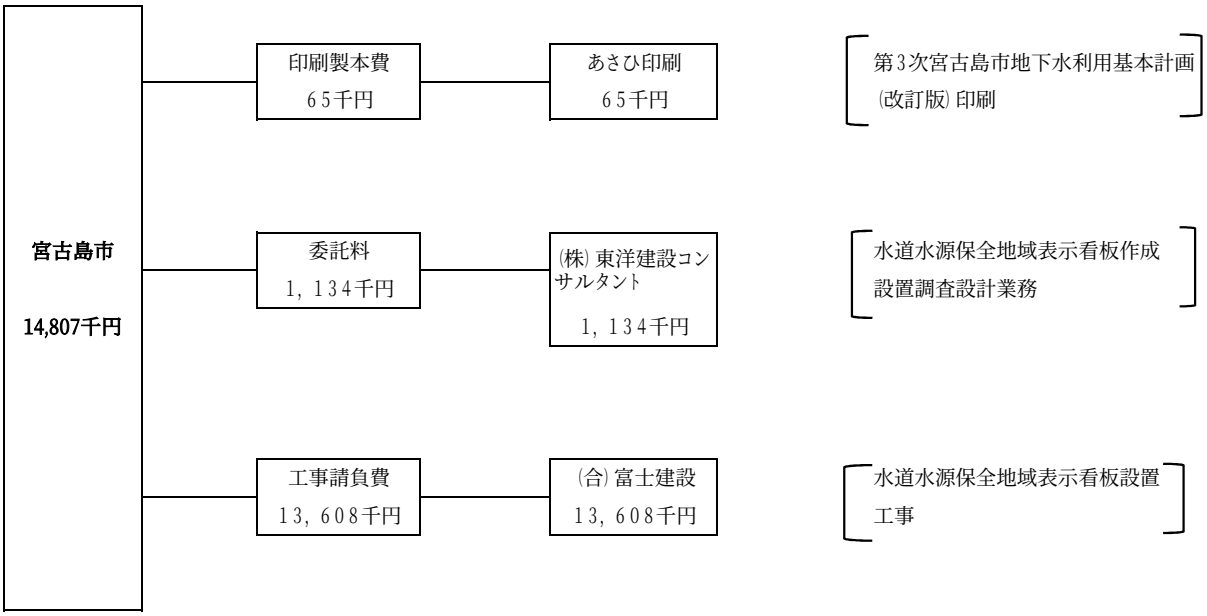
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	水道は国民生活及びあらゆる経済活動に必要不可欠であり、観光振興に伴う水需要増大に応えるためにも、「清浄にして豊富低廉な水の供給」（水道法第1条）は最重要課題である。そのためには水質の悪い原水に高度な浄水処理を加えるよりも、清浄な原水を維持し低コストな浄水処理により供給する方が理にかなっている。特に狭小な島嶼地域であり、かつ地下水を唯一の淡水資源とする宮古島市では、市民生活、観光サービス、その他の産業を支えるため、水道原水となる地下水の保全は必要最低限の要請である。 平成26年度は、平成24～25年度にかけ実施した調査結果に基づき、第3次宮古島市地下水利用基本計画の改定及び、同計画の印刷製本又、水道水源流域の地下水保全を呼びかける啓発のための表示看板設置を行ったが、用地交渉不成立や周知に効果的な場所が無く表示看板の設置数が目標値に届かなかった。	表示看板設置箇所の地主が島内におらず、今後の設置が難しい状況にあるため、それを補うため、今後、市広報紙や上下水道部窓口等を通じた周知を適宜行うこととする。 平成24～25年度水道水源流域保全流域調査業務にて、白川田水源（湧水）の湧水口付近に推定される地下水脈が大きな空隙になっている可能性が指摘された。本事業の成果目的には直接影響しないが、地下水脈中の空隙が崩落した場合、湧水量が激減する恐れがあるため、空洞の大きさや地質的構造、崩落リスクについて明らかにし、保全対策の要否について検討する必要があるが、費用対効果を含めた予算措置についても検討が必要である。

今後の取り組み方針

宮古島市地下水保全条例及び、第3次宮古島市地下水利用基本計画改訂版に基づき地下水脈中の空隙等の調査を検討し、「命の水」を継承するため市民の協力を得つつ水道水源流域の保全に力を入れ、安全・安心な飲み水を市民に届けられるよう日々努める。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
14,807	14,807	11,845	2,962	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○工事及び委託事業者は、指名競争入札で選定しており、妥当であったと考える。 ○用地交渉等の不成立により事業内容の見直しがあり、看板設置基数が減ったため、不用額が生じている。 ○費用、使途については、完成検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宮古島市

平成２６年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	10-①	博物館図録等作成事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ｴ 文化活動を支える基盤の形成
担当部課名	生涯学習部　総合博物館	事業実施(予定)年度	平成24～28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(2)

事業内容

本市の博物館には、約8,000点に及ぶ資料が収蔵されており、これらの幅広い活用を図るため、収蔵資料を整理し、ﾃﾞｰﾀｰﾍﾞｰｽ化、ﾃﾞｼﾞﾀﾙ化及び図録等を作成し、貴重な資料の半永久的な保存と、情報の共有化を図る。

実施方法

■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位:千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a)当初予算額	3,582	4,584	3,744		
	(b)予算現額	3,582	4,584	3,744		
	(c)増減額(b-a)	0	0	0		
	(d)繰越額	—	—	—		
	A. 計(b+d)	3,582	4,584	3,744		
B. 執行済額		3,264	4,314	3,544		
うち交付金充当額		2,611	3,451	2,835		
次年度繰越額		—	—	—		
執行率（%）(B/A)		91.1%	94.1%	94.7%		

予算の状況の説明：不用額200千円は、勤務日数の調整による残額であり、事業内容の執行も当初計画どおり概ね適正に執行できた。

活動目標(指標)及び達成状況

H26活動目標(指標)		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
「民俗資料編」の目録作成に係る資料整理及びﾃﾞｰﾀｰﾍﾞｰｽ化。	目　標	(　)	資料整理ﾃﾞｰﾀｰﾍﾞｰｽ化	(資料整理ﾃﾞｰﾀｰﾍﾞｰｽ化)	(　)
	実　績		資料整理ﾃﾞｰﾀｰﾍﾞｰｽ化	資料整理ﾃﾞｰﾀｰﾍﾞｰｽ化	
	目　標	(　)	(　)	(　)	(　)
	実　績				

達成状況説明：H27年度の民俗編目録等の作成に向け、博物館に収蔵されている民俗資料約2,000点の内、1,500点の整理及びデーターベース化を行った。

成果目標(指標)及び進捗状況

H26成果目標(指標)		基準値(　年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(　年度)
ﾃﾞｰﾀｰﾍﾞｰｽの整備率:60%	目　標	(　)	(20%)	(40%)	(60%)	(　)
	実　績		20%	40%	70%	
	目　標	(　)	(　)	(　)	(　)	(　)
	実　績					

進捗状況説明：図録作成事業実施期間を５カ年計画１００％(自然編２０％･歴史編２０％･民俗編４０％･美術編２０％)を目標とし、Ｈ２４年度は自然編約2,500点の資料を整理、H25年度は歴史編約5,900点の資料を整理し図録誌をそれぞれ完成させている。また、民俗編の図録作成には2カ年の事業期間を設けているためＨ２６年度は７０％、1,500点の資料を整理し、H27年度に民俗編の図録を完成する。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・平成26年度は、2,000点ある民俗資料の整理やデーターベース化に取り組んだ。専門的知識有する者を雇用した結果、約1,500点の整理及びデーターベース化を終了、残り500点は図録作成と併せて、27年度に向けて計画どおりに進んでいる。	・平成26年度は、事業計画どおり資料の整理及びデータベース化を終了しており、特に改善の余地は見当たらない。平成27年度は専門的資格を有する者を引き続き雇用、残り500点の民俗資料の整理及びデーターベース化を実施し、図録作成も行い事業達成に繋げる。

今後の取り組み方針

・平成27年度は、「民俗資料編」の最終年度なので図録等300冊の作成に向け、残りの民俗資料整理及びデーターベース化を行う。
・今後も調査、研究、教育普及活動の一助とするため継続する。また、図録をもとに、常設展示室の資料の入れ替えを行い、これらの展示資料を人々の教養の向上と図録配布先の関係機関と資料の借用などを行い、企画展の開催などの活用に向けた取り組みを行う。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,544	3,544	2,835	709	0

宮古島市 3，544千円 ― 報　酬 3，544千円 ― 嘱託職員2名 3，544千円 ［収蔵品資料整理・ﾃﾞｰﾀｰﾍﾞｰｽ化整備に係る報酬］

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○職業安定所を通して、専門的資格を有する者を採用しており選定方法は妥当と言える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○報酬額は規程に基づき、予算化を行っており事業内容に見合った適正規模といえる。
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	○予算は、事業目標達成に必要な報償費に限定され活用されている。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	